我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(哺乳類)>

2015.03.26

| | ı | | 対策優先度 | | M | 米種・重点対東外米種のみ記入 | | | 1 | | | | 評価項 | = | | | | | | 1 | | | I | | | 2015.03.26 |
|---------------|------------|-------------------------------|-----------------|----------|-------------------|-----------------------|--------------------------|------|-------|-------------|-------|------|------|-----|----------------|-----------------------|---------------|-----------|--|-------------------------|---|---|---------------------------------|--|---|--|
| No 定着 | 音段階 | カテゴリ | | 実効性・実行可能 | 特定外来 /旧要注 意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可生物 | 可能性 導入 競 | 生態系 | | 分布拡大 | 大重要 | 特に なる 人体 | 問題と 被害 経済 産業 | 逸出·拡 利用 付混 | 散 | 京産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 定着を予 | | | (定着 | 防外 | 来種) | | | | | | | IR R | | | | 庄未 | I/tt. | \ | | | | | | | | |
| 1 未定着 | | 来種 侵入予防 外来種 | | | 特定外来 | ジャワマングース | Herpestes javanicus | | | | | - | - | - | - | - | | ア、: レーシア | ナム、カンボジ ラオス、タイ、マ シア、インドネ 、シンガポー ミャンマー原 | - | 森林、草地、農 耕地 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 日本に定着しているマングースは本種であると考えられていたが、調査の結果、フイリマングースとして別種として扱うべきことが明らかになった。 | 特定外来、 W100:日本·IUCN | Veron et al.(2007) |
| 30 | 州の皇 | 着予防 | / M. 372.45€ | / | | | | | | | | | | | | | | 産。 | | | | | | | | |
| 2 未定着 | | 看 ブタカス その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | フクロギツネ | Trichosurus vulpecula | , | | | | | - | - | - | - | | オー 産。 | ストラリア原 | | | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | | 牛結核や寄生性線虫の伝播。 | 特定外来、 W100:IUCN、 GISD、 各県:北海 道 | 日本生態学会 (編) (2002)、自然環境研究センター (編著) (2008) |
| 3 未定着 | | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | カニクイザル | Macaca fascicularis | , | | - | | - | - | - | - | | | パラス、 | アジア原産。 オ、モーリシャ サモア等の島 :侵入。 | | 森林、マング ローブ等 | | | ニホンザルとの競合・交雑、寄生虫や病原菌の伝播、農業被害、1971年に伊豆諸島地内島に放されて野生化したが、1995年ごろに消滅。 | 特定外来、 W100:IUCN、 GISD | 自然環境研究セン ター(編著)(2008)、山 田ほか(2011) |
| 4 未定着 | | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | シママングース | Mungos mungos | , | | - | . - | | - | - | - | | | · 77 | リカ原産。 | - | 森林、草地等 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | | 特定外来 | Wilson & Mittermeier (eds.)(2009) |
| 5 未定着 | i i | その他の 定着予防 外来種 | | | 旧要注意 | フェレット | Mustela furo | | | | | | - | - | - | - | | ロッ. を家 | ロッパ産のヨー パケナガイタチ 畜化。北米、 ージーランドに | | ヨーロッパケナ ガイタチは、森 林、草原、耕作 地 | ペットとして士皇に汝涌し、飼養されている | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 | 要注意、 GISD、 各県:北海道、千 葉、兵庫、愛媛 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 6 未定着 | | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | カニクイアライグマ | Procyon cancrivorus | , , | | - | - | | - | - | - | | | 中南 | 3米原産。 | - | 水辺の森林 | かつてアライグマに混入してペットとして輸入されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | アライグマと同様の被害を及ぼす可能性。 | 特定外来、 各県: 滋賀 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 7 未定着 | i i | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | アキシスジカ(アクシスジカ) 属 | Axis spp. | , | | - | | | - | - | - | | | 原産パ、 | ド、スリランカ を、東ヨーロッ 北米、南米、 ーギニア等に | - | 森林、草原 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | ニホンジカとの競合・交雑の可能性が指摘されている。 本属には計4種が含まれる。 | 特定外来、 GISD、 各県:京都 (シカ亜科として) | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 8 未定着 | i | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | ダマシカ属 | Dama spp. | , | | - | | | - | - | - | | | | ロッパ、西アジ 産。世界各地 入。 | - | 森林、草原 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | | ニホンジカとの競合・交雑の可能性が指摘されている。 | 特定外来、 各県: 京都(シカ亜科として) | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 9 未定着 | i | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | シフゾウ | Elaphulrs davidlanus | , | | - | | - | | | - | - | | 中国 | 原産。 | - | 沼地、湿地 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | | 野生の個体群は絶滅した国際的な希少動物で、動物圏 で飼育されているのみ、現状では野外に逸出する可能 性は低い、飼育下ではシカ属との交雑例が報告されて いる。 | 特定外来、 各県: 京都(シカ亜科として) | |
| 10 未定着 | | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | タイリクモモンガ | Pteromys volans | | | - | | - | - | - | - | - | | ・ ン、 | ア、カザフスタ 中国東北部、 キ半島原産。 | - | 森林 | かつてはベットとして流通し、飼養されていた。 現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養 等が規制されているが、展示用等で許可を受 けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | エゾモモンガ <i>P. v. orii</i> は本種の亜種。 | 特定外来、 各県: 北海道、京都 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 11 未定着 | | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | トウブハイイロリス | Sciurus carolinensis | , | | - | - | - | - | - | - | | | パ、 | に原産。ヨーロッ 南アフリカ、 ・ストラリアに侵 | - | 森林、公園 | かつてはペットとして流通し、飼養されていた、 現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養 等が規制されているが、展示用等で許可を受 けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | リスポックスウイルスの媒介、樹皮剥ぎ被害。 | 特定外来、 W100:IUCN、 GISD、 各県:北海 道 | Gurnell et al. (2006)、 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 12 未定着 | i | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | フィンレイソンリス | Callosciurus finlaysonii | , | | - | - | | - | - | - | | | ンボ | ナム、タイ、カ ジア、ラオス、 ンマー原産。 | - | 原生林、二次 林、植林地や 公園など、多様 な森林環境 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規 制されている。展示、学術研究用等で許可を 受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 静岡県浜松市では、クリハラリスと思われていた個体からフィンレイソンリスのミトコンドリアDNAゲノムが確認されている。 | | 藏本(2009)、Francis, M. C. (2008) |
| | | | 外来和 | (総合 | 対策外系 | ₹種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 定着初定分布 | 期/限 | | | | 特定外来 | タイワンザル | Macaca cyclopis | , | | | | - | - | - | - | | | - 台灣 | 原産。 | | | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | | | 特定外来、 W100:日本·IUCN、 各県:青森、東京、静岡、和歌山 | 日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008)、自然環境研究センター (編著) (2008)、山田ほか (2011) |
| 14 定着初定分布 |]期/限 | 緊急対策 外来種 | | | 特定外来 | アカゲザル | Macaca muiatta | , | | | | - | - | | - | | | 南アナ北部原 | ジア ~ インドシ 部、中国中南 注産。 | 南房総 | 湿地林~半乾燥地林~半乾燥な森林。広寒報 はと耕作地を はと耕作地が はと出した丘陵地。 | * 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 房総半島では二ホンザルとの交雑が進んでいる。寄生 虫や病原菌の伝播、農業被害。 | 特定外来、 GISD、 各県:千葉 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008)、山 田ほか(2011) |
| 15 分布拡 まん延 | 大期~ | 緊急対策 外来種 | | | | ノネコ(イエネコの野生化し たもの) | Felis silvestris catus | , | | | | | | | - | - | | ヤマ | 原産のリピア ネコを家畜 汎世界的に分 | 日本全国 | 都市、農村、森 林 | ・ イエネコはペットとして大量に飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 在来ヤマネコのいる対馬、西表島では感染症の伝播の可能性が指摘され、実際にツシマヤマネコへのFIVの感染が確認されている。電美大島におけるアマミノクロウサギ、沖縄島やんぱる地域におけるヤンパルクイナやノグチグラ等国内希少野生動植物種を含む希少種の捕食が確認されている。 個厳島ではオオミズナギドリを捕食し、被害を与えていることが確認されている。 | W100:IUCN、 GISD、 各県:北海 道、千葉、京都、兵 庫、鳥取、沖縄 | (2008)、山田ほか (2011) |
| 16 定着初定分布 |]期/限 | 緊急対策 外来種 | | | 特定外来 | フイリマングース | Herpestes auropunctatus | | | | | | - | | - | | | 中東南ア部等 | 『、南アジア、東 『ジア、中国南 『原産。 | 沖縄島、奄美大 島、鹿児島県本 土 | 森林、草原、農 地等 | かつてハブ及び野鼠を防除する目的で輸入、 放逐された。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、許可を 受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 奄美大島でアマミ/クロウサギ、沖縄島でヤンバルクイナ等、多くの絶滅のおそれのある種に影響を与えている。日本に優入した個体群はかつてはジャワマングース H. javanicusとみなされていた。 | | 日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008)、自然環境研究センター(編著) (2008)、山田ほか (2011)、亘 (2011) |

| | 対策優先度の要件 | 持定外来 | | | | | | | | 評価項目 | 1 | 14401 | ov · I | | | | | | | | | | |
|---|-----------|---------------|---|-------------------------|------|---------------|----------|---|----|-----------|----|-------|--------|------|------------------|---|--|-------------------------------------|---|---------------------------------|---|---|--|
| No 定着段階 カテゴリ | | (旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | | 能性 第入 競話 | | | 分布拡大 繁殖 気 | 里安 | | | 逸出・払 | | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 17 分布拡大期 - 緊急対策 まん延期 外来種 | 特 | 持定外来 | アライグマ | Procyon lotor | , | | | - | 授長 | | | | 生来 | /t | | 七米~中米原産。 | ほぼ日本全国 | 都市部から森林、湿地、水辺 | かつてベットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 知床国立公園入口付近及び支笏洞爺国立公園に侵入、北海道ではニホンザリガニやエゾサンショウオの食害、サギ類のコロニーの消失などの生態系影響を生じている。 なお、アライグマ回虫を人が経口摂取すると、中枢神経障害を引き起こすことがあるが、国内の野生化した個体からは検出されていない。 | 特定外来、 W100:日本、 GISD、 各県:北海道、青森、干葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳 島、佐賀、鹿児島 | |
| 18 定着初期/限 緊急対策 定分布 外来種 | 特 | 宇 定外来: | キョン | Muntiacus reevesi | | | / - | - | | - - | - | - | | | - 中産 | 中国南部、台湾原 養。 | 千葉、伊豆諸島 | 森林 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | | 動物園の飼育個体が逸出して定着した。 | 特定外来、 各県 千葉 | 日本生態学会(編) (2002)、阿部(監) (2008)、自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 19 定着初期/限 緊急対策 定分布 外来種 | | | ノヤギ(ヤギの野生化したも の) | Capra hircus | , | | / - | - | | | | - | | | - 岸 | ヨアジア地中海沿岸が原産地とされ こいる。 | 伊豆諸島八丈 小島、小笠原父 島、尖閣諸島魚 釣島等の島嶼 | 森林、草原等 | 家畜として飼育されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 摂食が植生の衰退を引き起こし、生態系の改変につながる。 | 各県:愛媛、佐賀、 鹿児島、沖縄 | 日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008)、自然環境研究センター(編著) (2008)、山田ほか (2011) |
| 20 分布拡大期 - 緊急対策 まん延期 外来種 | 特 | 宇定外来 | クリハラリス(タイワンリス) | Callosiurus erythraecus | 3 | | | - | | - | - | - | | | イ + 部 チ | 台湾、中国南部 ~ (フドシナ・マレー ド島 ~ インド北東 豚原産。アルゼン Fン、ヨーロッパに 浸入。 | 神奈川、静岡、 岐阜、伊豆大島 他 | 主に常緑広葉 樹林、市街地・ 造林地 | 現在は付たが不主物に指定され、制力・関係 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 電線噛害等生活被害。 農業被害。 寄生虫の伝播の可能性. | 特定外来 | 日本生態学会(編) (2002)、浅川(2005)、 田村・宮本(2005)、阿部(監)(2008)、自然 環境研究センター(編 著)(2008)、山田ほか (2011) |
| 21 定着初期/限 緊急対策 定分布 外来種 | 特 | 宇定外来: | キタリス | Sciurus vulgaris | | | | | - | - | - | - | - | | - IE | 日北区全域原産。 | 狭山丘陵 | 森林 | かつてはペットとして流通し、飼養されていた。 現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養 等が規制されているが、展示用等で許可を受 けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | エゾリスS. v. orientalis は本種の亜種であり、交雑が懸念される。本州以南ではニホンリスとの競合が予想される。 る、 ペスト等感染症や、ダニによる回帰熱の媒介。 | 特定外来、 各県 北海道 | 日本生態学会 (編) (2002)、自然環境研究センター (編著) (2008) |
| 22 分布拡大期~ まん延期 緊急対策 外来種 | | | クマネズミ | Rattus rattus | , | \square | | - | | | | - | | - | | インドシナ半島原 産。汎世界的に分 市。 | 日本全国 | 都市、農村、島 嶼では森林に 侵入することも 多い。 | 利用に関する情報は得られていない。 | - | 人献共通感染症媒介。ツッガムシとケオブスネズミノミの主要寄主、小笠原諸島や南西諸島では広東住血線 由の主要宿主、外笠原諸島や南西諸島では広東住血線 由の主要宿主、希少権例の食害や種子食害による森林 の更新阻害なども生じさせる。 | W100:IUCN、 GISD、 各県:北海 道、千葉、兵庫、鳥 取、鹿児島、沖縄 | 日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008)、山田ほか (2011) |
| 23 分布拡大期~ 緊急対策 まん延期 外来種 | 特 | 定外来 : | ヌートリア | Myocastor coypus | 2 | | | - | | | | - | | | - 南 | 有米中南部原産。 | 本州中部以西 | | かつて、毛皮用に養殖されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 兵庫県加西市のため池にて水生植物群落を壊滅、ペッコウトンボの減少の原因となった。岡山のため池ではドブガイの大量捕食、木曽川氾濫原水域ではトンガリサリハガイ等のイシガイ科一枚貝類の捕食についての報告がある。 農業被害、畦・堤防の脆弱化。 | 特定外来、 W100:IUCN、 GISD、 各県:兵庫 | 日本生態学会(編) (2002)、自然環境研究センター(編著) (2008)、山田ほか (2011)、森(2002)、久 米(2012) |
| 重点対策外来種 定着初期/限 定分布 重点対策 外来種 | | | カイウサギ(アナウサギ) | Oryctolagus cuniculus | | | | - | | - | | - | | | - 1 U | イベリア半島、アフ リカ北西部原産。 | 渡島大島、松前 小島、地内島、 大久野島、沖ノ 島等の島嶼 | 草原等 | ペットとして大量に流通・飼養されている。 一部では毛皮用、食肉用としても飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 摂食が植生の衰退を引き起こし、生態系の改変につな がる。 | GISD、 各県:北 | 日本生態学会(編) (2002)、阿部(監) (2008)、自然環境研 中 究センター(編著) (2008) |
| 25 定着初期/限 重点対策 定分布 外来種 | 特 | 定外来 | ハリネズミ属(アムールハリ ネズミ(マンシュウハリネズ ミ)など) | Erinaceus spp. | | \mathcal{N} | / | - | | - | - | - | - | | - 東 | 5欧、中東、東欧、 東アジア〜北東ア ジア原産。 | 神奈川、静岡 | 地、湿地等。森 | かつてはベットとして流通し、飼養されていた。 現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養 等が規制されているが、展示用等で許可を受 けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 地上営巣性鳥類への悪影響が指摘されている。 | 特定、 各県:北海 道、京都 | Jackson(2000)、阿部 毎 (監) (2008)、自然環 ¹ 研究センター(編著) (2008) |
| 26 分布拡大期~ まん延期 重点対策 外来種 | | | ハクビシン | Paguma larvata | | | - | - | | - | - | - | | | - 部 無 | イマラヤ、中国南 邶、台湾、マレー半 鳴、スマトラ、ボル ネオ原産。 | 本州 ~ 九州に 点在。北海道も 記録あり。 | 市街地~山地 | かつて、毛皮用に養殖されていたことがある。 現在は展示用等で飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | て、最近、遺伝子分析から少なくとも日本のハクビシン | 各県:北海道、青森、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、佐賀 | 日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008)、増田ほか (2011) |
| 27 分布拡大期~ まん延期 重点対策 外来種 | | | ノイヌ(イヌの野生化したも の) | Canis lupus | | И | / - | - | | - - | | - | - | | - jr | 凡世界的に分布。 | 日本全国 | 都市、農村、森林 | イヌはペットとして大量に飼養されている。 | むべき。 | 奄美大島におけるアマミノクロウサギ、沖縄島やんばる 地域におけるヤンバルクイナ等国内希少野生動植物種 を含む希少種の捕食が確認されている。 | その他 | 阿部 (監) (2008) |
| 28 分布拡大期~ まん延期 重点対策 外来種 | 特 | 持定外来 (| アメリカミンク(ミンク) | Neovison vison | | \mathcal{N} | | - | | - | - | - | | | - 12定 | 比米原産。中国、 ヨーロッパに侵入・ 配着。 | 北海道、宮城、 福島、群馬、長 野 | 海岸部、河川、 湖沼沿い | 毛皮用に養殖されてきた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | | 特定、 各県:北海 道 | 毎 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 分布拡大期~ まん延期 重点対策 外来種 | | | ノブタ・イノブタ(ブタ・イノブ タの野生化したもの) | Sus scrofa | | \mathcal{A} | / - | | | - | | - | | | - J | 原種のイノシシは 1ーラシア原産。 比米、オーストラリ アに侵入。 | 各地 | 森林等 | 全国各地で主に食肉用に飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 小笠原弟島で、固有陸貝等に影響を与えていた個体群 は根絶。 対馬では在来のイノシシが絶滅した後、由来不明のイノ シシが放され農業被害等が問題となっている。 | | 日本生態学会 (編) (2002)、Nogueira- Filho et al. (2009)、 岸本(2010) |
| 30 定着初期/限 重点対策 分来種 | 特 | 持定外来 | シカ属(国内産ニホンジカを 除く) | Cervus spp. | , | | | | | - | - | - | | | - 原 | 1-ラシア、北米 原産,世界各地に 長入。 | 友ヶ島(和歌山) | 森林、草原、湿地等 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 本属の現生種には11種が含まれる。摂食が植生の衰退 を引き起こし、生態系の改変につながる。 | 特定外来、 各県 京都(シカ亜科として | 日本生態学会 (編) (2002)、自然環境研) 究センター(編著) (2008) |
| 31 定着初期/限 重点対策 介来種 | | 要注意 : | シマリス(チョウセンシマリス) | Tamias sibiricus | | | | | - | - | - | - | - | | - | コシア、中国、朝鮮 ド島等原産。ヨー コッパに侵入。 | 新潟、山梨、岐阜等 | 森林、公園 | ペットとして流通し、飼養されている。 | | 北海道に分布する在来種エゾシマリスT. s. lineatus は本種の亜種であることから、交雑、競合が懸念されている。知見の集積が必要。 | 要注意、 GISD、 各県:北海道、滋 賀、兵庫、鳥取、愛媛 | (2008)、自然環境研 |
| 32 分布拡大期~ まん延期 重点対策 外来種 | | , | ハッカネズミ | Mus musculus | | | / - | - | | - - | - | - | | | - h | 原産地は不明。 1ーラシア、アフリ 」、オセアニア全域 こ分布。 | | 家屋、農耕地、 草地、河川敷、 荒地、砂丘地 等 | 実験動物やペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 農業被害。 | W100:IUCN、 GISD、 各県:北海 道、滋賀、兵庫、京都 | 阿部 (監) (2008) |
| 33 定着初期/限 定分布 重点対策 外来種 | 特 | 定外来 | マスクラット | Ondatra ziberhicus | | | <u> </u> | - | | - | - | - | | | _ | | | 河川、湿地、沼地、沼地、沼地、沼地 | かつて、毛皮用に養殖された。現在は特定外 来生物に指定され、輸入・飼養等が規制され ているが、許可を受けた個体が飼養されてい ス | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | レンコンの農業被害。海外では営巣による堤防・ダム・ 鉄道築堤・灌漑施設の破壊。 | 特定外来、 各県 | 阿部 (監) (2008)、自 然環境研究センター (編著)(2008) |
| 34 分布拡大期~ まん延期 単点対策 外来種 | | | ドブネズミ | Rattus norvegicus | , | | <u> </u> | - | | | - | - | | | - 中 え | /ベリア南東部 , 中国北部原産と考 もられている。汎世 界的に分布。 | 日本全国 | 都市等 | 本種を改良したラットが実験動物やベットとして 飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 人獣共通感染症を媒介する。ツツガムシの主要宿主。 | GISD、 各県:北 海道、千葉、京都、兵 庫、鳥取、鹿児島 | 兵 阿部 (監) (2008)、山 田ほか(2011) |
| その他の総合対策ダ 定着初期/限 その他の 総合対策 外来種 | Λ | 要注意 | リスザル | Saimiri sciureus | | И | <u></u> | - | | - | - | - | - | | - 南 | 有米北部原産。 | 伊豆半島で記 録 | 森林、マング ロープ等 | ベット、展示用として飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 | 要注意 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |

【国内由来の外来種】

| 国内国 | 自来の名 | 小米種】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|------|-------------|----------------------------------|---------------------------|-------------------|--------------------------|------|-----------|-----------|------|---------|----------|-----|-------|----|------|---|------------------------------|----------------|-------------------------------------|---------------------------------|--|---|---------------------------------------|
| No 定 | 着段階 | l I. | 対策優先度の要 被害の深 対度 対度 性 | ■ 特定外系 性 / 旧要注 1能 章 | 来主 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可生物。 | 能性 生 | 態系被害 | # 1 III | 拡大 重要 地址 | 要人位 | 経済 産業 | 利用 | 付着混入 | 分布 | 問題となっている地域 | 生息環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 総合的 | に対策 | が必要な | 外来種(維 | 合対策外 | 来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急 | 対策外 | 来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 国内来種 | 由来の外 | 緊急対策 外来種 | | | 伊豆諸島などのニホンイタ チ | Mustela itasis | , | - | | - | - | | - | | - | | 本州、四国、九州、 周辺島嶼 | 北海道、伊豆諸島、南西諸島 | 農耕地、森林、 草地等 | かつてネズミ駆除や毛皮目的で導入されたと ころが多い。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | | 各県∶北海道、鹿児 島、沖縄 | 日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008) |
| 重点 | 対策外 | 来種 | - | I | - I | I | - | | - ' | | - | | | - | | | | 1 | 1 | | | 1 | | 1 |
| 2 国内来種 | 由来の外 | 重点対策 外来種 | | | 奥尻島・屋久島のタヌキ | Nyctereutes procyonoides | , | | | - | - | - | - | | - | - | 北海道、本州、四 国、九州、佐渡、瀬 戸内諸島、壱岐、 甑、天草等。アジア 東部。 | 奥尻島、屋久島 | 住宅地、農村、森林等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 奥尻島で、地表性甲虫類に影響を与えている。 | 各県∶鹿児島 | 堀(2004)、阿部 (監 (2008) |
| 3 国内来種 | 由来の外 | 重点対策 外来種 | | | 北海道・佐渡のテン | Martes melampus | | Λ | Λ | | - | - | - | | - | - | 本州、四国、九州、 淡路島、対馬 | 北海道、佐渡 | 森林等 | かつて、毛皮用に飼養されたが、現在の利用 はないものと思われる。 | | 北海道ではエゾクロテンとの置き換わりが進行している。 佐渡では野生下トキの繁殖期における攪乱要因の一つとして挙げられている。 | 各県∶北海道 | 日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008) |
| 4 国内 来種 | 由来の外 | 重点対策 外来種 | | | 対馬以外のチョウセンイタチ | Mustela sibirica | | | | | - | - | - | | - | - : | 対馬 | 関西以西の本 州、四国、九州 | 都市、住宅地、農耕地、森林等 | 毛皮目的で導入されたと考えられる。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | | W100:日本、 各 県:滋賀、京都、兵 庫、鳥取、愛媛、熊 本、鹿児島 | 日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008) |
| 5 国内来種 | 由来の外 | 重点対策 外来種 | | | 徳之島などのニホンイノシシ | Sus scrofa leucomystax | , | | | | | - | _ | | - | | 本州、四国、九州、 淡路島 | 奄美大島、徳之 島、沖永良部 島、沖縄島など | | 家畜、狩猟目的で導入されたと考えられる。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 奄美大島、徳之島、沖縄島では、亜種リュウキュウイノ シシ S. s. riukiuanus との交雑が疑われる例が見つかっ ている。 対馬では在来のイノシシが絶滅した後、由来不明のイノ シシが放され農業被害等が問題となっている。 | その他 | 阿部 (監) (2008) |
| 6 国内来種 | 由来の外 | 重点対策 外来種 | | | 新島などのニホンジカ | Cervus nippon | 3 | | | - | - | - | - | | - | - 1 | ベトナム ~ 極東ア ジア。北海道、本 州、四国、九州 | 新島、壱岐、粟島 | 森林等 | かつて観光目的で導入された島もあるが、現 在は利用されていない。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 4000年11-44-0月(至月の王451)1-知火日的茶材 1- | その他 | 阿部 (監) (2008) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(鳥類)>

【国外由来の外来種】

| | その外来 | ~1°=1 | 対策優先 | 度の要件 | は緊急対策 | 外来種・重点対策外来種のみ記入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2015.03.26 |
|-----------------|----------------------|------------------|-----------------|--------------|--------------|--------------------|--------------------------------|------|---------|-------|----|-------|------|-------------|-------|------|--|--|-----------------|--|--|--|--|--|
| | | - 1 | 対策優先度 | | 特定外来 | 2 | | | | | | 評価項目 | I #± | 1-8887 | 1 L I | | | | | | | | | |
| No 定着戶 | 段階 カラ | | 被害の深 刻度 | 実効性・ 実行可能 | | 和名 | 学名 | 選定理由 | | | | 分布拡大 | 重要した | に問題 こる被語 | ᇀᆝᄺᅩᆸ | · 拡散 | | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 定着を予 | さするが | | . ! | 111 | | | | 1 | 生物 導入 | 競合 交雑 | 摂食 | 終殖 気候 | 地域人 | 体産 | 業 | 混入 | | | | | | | | |
| | の定着 | | | MAJAK | 1 1€/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 未定着 | その 定着 外来 | | / | | 旧要注意 | ま シリアカヒヨドリ | Pycnonotus cafer | | - | - | - | - | | | | | インド、パキスタン、中国的は ブータン、ミャンマー、タイ北部 原産。 オーストラリア、 太平洋諸島等に 個人 | - | 都市、農耕地、森林等 | ペットとして飼養されている可能性がある。 | ペット用の安易な輸入 や飼養は控えることが 望ましい。 また逸出しないよう十 分注意し、放逐は厳に 慎むべき。 | 神奈川県での観察事例がある。 | 要注意、W100:IUCN、 GISD | Chrustipher Lever(1987)、自然環境 研究センター(編著) (2008)、川上ほか (2012) |
| 2 未定着 | | 他の予防種 | | | 旧要注意 | 3 外国産メジロ | Zosterops spp. | | | | - | - | - | | - | - | 頭が半島、台湾、 中国、ベトナム、 フィリピン等原 産。 | - | 都市、農耕地、森林等 | ベット、鳴き合わせ等の愛玩目的で飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎む べき。 | 日本産メジロの別亜種のヒメメジロZ japonicus simplex、チョウセンメジロZ erytropleurus、ハイドラメジロZ papabrosus 影客を含む、輸入されていた個体の多くは、密猟された日本産と入れ替えて販売されていたという。感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律における動物の輸入届出制度により、高病原性インフルエンザの発生国や地域からの輸入が禁止されている。 | 要注意、 各県:京都 | 自然環境研究センター (編著)(2008) |
| 総合的に | 対策が必 策外来 | | 外来種 | (総合 | 対策外 | 来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参 心入 | 東 <u> </u> | | | | | | | | 1 / | 1 1 | | | | Т | Т | Π | インド、スリラン | 福島、埼玉、滋 | | | | | | |
| 3 分布拡力まん延期 | 期~ 緊急 外来 | | | | 旧要注意 | ミ インドクジャク | Pavo cristatus | | /// | | | - | | - | | - | | 賀、三重、愛媛、 | 森林、草原、 農耕地 | 各地で観賞用に飼養されている。 | 逸出しないよう十分注 意し、放逐は厳に慎む べき。 | 先島諸島では駆除が行われている。 | 要注意、 各県:徳島·愛 媛·沖縄 | 自然環境研究センター (編著)(2008)、川上ほ か(2012) |
| 4 まん延期 | | 種 | | | 特定外я | ₹ カナダガン | Branta canadensis | | $/\!/$ | | | | - | - | | - | 北米原産。 ヨーロッパ、 ニュージーランド、オーストラリア に侵入。 | 茨城、神奈川、山梨、静岡 | 湖沼、河川等 | 展示目的等で飼養されているが、平成26年 民日より特定外来生物に指定され、輸入・飼 養等が規制されている。 | 逸出しないよう十分注 意し、放逐は厳に慎む べき。 | 在来種のシジュウカラガン(Branta hutchinsii) や他の在来ガン類と交雑する可能性が危惧されている。 | 特定外来、 GISD、 各 県:干葉 | Chrustipher Lever(1987)、自然環境 研究センター(編著) (2008)、川上ほか (2012) |
| 収点量 | 策外来 | | | | 1 | | | | 1 / | 1 1 | | | | Т | 1 | 1 | 中国中·西·南 | | Τ | かつてはペットとして飼養されていた。現在 | | | | 日本生態学会 (編) |
| 5 分布拡力まん延期 | 期~ 重点外来 | 対策 種 | | | 特定外来 | ₹ ガビチョウ | Garrulax canorus | | | - | - | - | - | | - | - | 部、ラオス北東 部、ベトナム北 部、台湾原産。 ハワイに侵入。 | 本州、四国、九州 | 丘陵地、平野 の森林 | は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が 飼養されている。 | 逸出しないよう十分注 意し、放逐は厳に慎む べき。 | 分布拡大中。 | 特定外来、 W100:日 本、 各県:熊本 | (2002)、自然環境研究 センター(編著)(2008)、 川上ほか(2012) |
| 6 分布拡力 | 期~ 重点外来 | 対策種 | | | 特定外я | ₹ カオグロガビチョウ | Garrulax perspicillatus | | $/\! /$ | 1 - | - | - | | - | | - | 中国中南部、ベトナム原産。 | 岩手、群馬、埼 玉、東京、神奈川 | 森林、農耕地 | かつてはペットとして飼養されていた。現在 は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等 は規制されているが、許可を受けた個体が 飼養されている。 | 返山 U はいよ ノー カ 圧 | | 特定外来 | 自然環境研究センター (編著)(2008)、川上ほか(2012) |
| 7 分布拡力まん延期 | 期~ 重点外来 | | • | | 特定外я | そ カオジロガビチョウ | Garrulax sannio | | // | 1 - | - | - | | - | | - | インド北東部、中 国南部、東南ア ジア等原産。 | 北関東~千葉 | 森林、住宅地、公園等 | かつてはペットとして飼養されていた。現在 は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等 は規制されているが、許可を受けた個体が 飼養されている。 | 返山 U はいよ ノー カ 圧 | | 特定外来 | 自然環境研究センター (編著)(2008)、川上ほか(2012) |
| ・まん延期 | | 種 | | | 特定外я | ₹ソウシチョウ | Leiothrix lutea | | /// | - | - | - | | | - | - | ヒマラヤ西部 ~ ミャンマー南西 部・北東部、中国 中部 ~ 南東部、 インドアッサム州 ~ ベトナム北東 部原産。 | 本州、四国、九州 | 森林(主に竹 林、笹藪) | かつてはベットとして飼養されていた。現在は存定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 返山 U はいよ ノー カ 圧 | 分布拡大中。 複数の国立公園内で確認されている(雲仙天草 国立公園、富士箱根伊豆国立公園等)。 | 特定外来、W100:日本、GISD、各県:京都·兵庫・鳥取・徳島・熊本・宮崎・鹿児島 | 日本生態学会(編) (2002)、自然環境研究 センター(編著)(2008)、 川上ほか(2012) |
| その他 | の総合 | 付策外 | <u>▶来種</u> ∕ | | 1 | 1 | | — Т | 1 | 1 1 | | | | _ | | 1 | 1 | I | 1 | <u> </u> | | | | |
| 9 定着初其 定分布 |) PK 総台 |)他の 対策 来種 | | | 旧要注意 | 気 コリンウズラ | Colinus virginianus | | | | | - | | - | | - | | 関東~近畿、四 国 | 森林、草原、 河川敷 | 猟犬の訓練用として放鳥された。 | 猟犬訓練のための放 逐・放置は慎むべき。 | 定着実態に関する知見の集積が必要。 | 要注意、 各県:京都·徳 島 | 自然環境研究センター (編著)(2008)、川上ほか(2012) |
| 10 分布拡力 まん延期 | 期~ その総合 外 |)他の 計対策 来種 | / | | | コウライキジ(大陸産亜種) | Phasianus colchicus karpowi | | $/\!/$ | 1 - | - | - | - | | | - | としてはヨーロッ | 奄美·沖縄·先島 | 台店 | 狩猟目的で放鳥された。 | 新たな放鳥は慎むべき。 | 北海道では生息数減少、2013年、石垣市では 農作物被害が拡大(新聞記事)、在来キジとの 交雑個体らしき個体も確認されている。 | 各県:北海道·千葉·愛媛·鹿児島·沖縄 | 日本生態学会 (編) (2002)、川上ほか (2012) |
| 11 定着初期 定分布 | 1/PK 総台 |)他の 計対策 来種 | | | | コブハクチョウ | Cygnus olor | | | - | | - | | | - | - | ユーラシア原産。 北米、ニュージー ランド、オーストラ リア、南アフリカ 等に侵入。 | 北海道ウトナイ湖 (繁殖地)、茨城 (繁殖地)、茨城 鹿ヶ浦(越冬地)、 鹿児島蘭牟 田池。その他多く の府県で確認 | | 愛玩目的で屋外で飼養されることが多い。 | 逸出しないよう、十分 な管理が望まれる。 | オオヒシクイと生息場所を巡る競合及び採食の 生態系への影響が指摘されている。飼育個体 は翼を切って飛べないようにした上で半ば放し 飼いにされることが多い。鹿児島県蘭辛田池 (ラムサール条約登録湿地、泥炭植物群落いに 若定天然記念物)では、観光目的で放け落りに されているが、2014年にこのうち20羽余りが同 辺の河川等へ逸出し、生態系への影響が懸念 されている。 | 各県:北海道·青森·千 葉·愛知·京都·鳥取 | 川上ほか(2012)、朝日 新聞記事(2014) |
| 12 分布拡力まん延期 | 州~ 総合 |)他の 計対策 来種 | | | 旧要注意 | 気 クロエリセイタカシギ | Himantopus mexicanus | | // | - | - | | - | - | | - | アメリカ西·南部、 中米 ~ ペルー南 西部、ブラジル北 西部、西インド諸 島等原産。 | 奈良、京都、大阪 | 湿地、干潟、水田 | ペットとして飼養されている可能性がある。 | 逸出しないよう十分注 意し、放逐は厳に慎む べき。 | | 要注意、各県・京都 | 自然環境研究センター (編著)(2008)、川上ほ か(2012) |
| 13 定着初其 定分布 |) PK 総台 |)他の 計対策 来種 | / | | | ワカケホンセイインコ | Psittacula krameri manillensis | | $/\!/$ | - | | - | - | - | | - | インド中・南部 スリランカ原産。 ヨーロッパ (イギリ ス、ドイツ、ベル ギー、オランダ 等)、アラブ諸 国、北米、ハワイ 等に侵入。 | 東京、千葉、京の、京知、京の、京、千葉、京知、張知、殖りた、近島でがあるが、東京田の区、中国の田ので、中の田の田ので、ののみ確認されている。 | | 愛玩目的として、ツキノワインコの名称で販売飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎む べき。 | 原産地のインドでは、農作物の害鳥として知られており、トウモロコシの苗やソルガムきび、ゴマ、小麦、大麦、芥子菜、落花生、マンゴ・グフバ、イチジ、ブドウ、モモ、ヒマリ、ひよこ豆、ザクロ、貯蔵穀物など様々な作物への被害が記録されている(Lever, 1987)。 | その他 | Chrustipher Lever(1987)、日高 (1997)、川上ほか (2012) |
| 14 分布拡ブ まん延期 | 総合 |)他の 対策 来種 | | | | シロガシラ | Pycnonotus sinensis ssp. | | 1 | 1 - | - | - | - | | | - | 台湾原産。八重 山諸島のものは 在来亜種。 | 沖縄諸島 | 林縁、農耕地、草原 | ベットとして飼養されている可能性がある。 | | 沖縄島周辺に定着している個体群は、台湾に自然分布する亜種タイワンシロガシラP.s. formosaeと考えられている。 | W100:日本、 各県:沖 縄 | 自然環境研究センター (編著)(2008)、川上ほ か(2012) |
| 15 分布拡力 まん延期 | 総合 | の他の 計対策 来種 | | | 未判定 | ヒゲガビチョウ | Garrulax cineraceus | | // | - - | - | - | - | | - | - | 中国南部 ~ ミャン マー ~ インド原 産。 | 愛媛、高知 | 森林 | ベットとして飼養されている可能性がある。 | | 高知県内では、複数の県立公園内(工石山、横 倉山等)で確認情報が報告されている。 今後の分布の拡大に注意が必要。 | 未判定外来 | 濱田ほか(2006)、川上 ほか(2012) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(爬虫類)>

| | | 5 | 対策優先度 | の要件 | | 来種・重点対策外来種のみ記入 | l | | | | | | 評価項 | 目 | | | | | | | | | | | | 201 |
|--------|------------|-------------------------|--------|-------------------|-------------------|---|-------------------------------------|------|-----------|---------|------|----|-------|-------|-------|-------------------|-----|----------|---|---------------------------|-----------------------------------|---|---------------------------------|---|---|--|
| 定着 | 段階 | カテゴリ | 被害の深刻度 | 実効性・ 実行可能 性 | 特定外来 /旧要注 意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能 生物 導 | _ | 主態系被 | | 分布拡 | 大重地 | 要なり | こ問題と る被害 経済 | 逸出• | 拡散 付着 | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 着を子 | が防す | る外来和 | | | 外来 種) | | | | 工物 等 | /\ XX = | 又雅 | 摂食 | 於7担 × | KI JK | N M | * 産業 | 利用 | 混入 | | | | | | | | |
| その | | 着予防 | 外来 | | | ı | ı | | | | | | | | | | | | | | | T | 1 | 1 | I | |
| 未定着 | i | その他 の定着 予防外 来種 | | | 旧要注意 | ワニガメ属 | Macrochelys spp. | , | | | - | | - | | - | - | | - | 北米 | - | 河川、湖、池沼、湿原等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 動物愛護管理法で特定動物(危険な動物)に指定されており、飼養には許可が必要。 | 要注意、 各身 愛知、滋賀、京都 兵庫、愛媛、佐賀 | 「门家グループ芸芸(作出類 精) 安川 (2005) 白好理 |
| 未定着 | i | その他 の定着 予防外 来種 | | | | ニシキガメ属 | Chrysemys spp. | | | | - | | - | | | - | | - | 北米 | - | 河川、池沼、湿地等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | アカミガメ等が規制された場合に、代用として輸入 量が増加するおそれがあるため留意が必要。 | その他 | |
| 未定着 | * | その他 の定着 予防外 来種 | | | 旧要注意 | チズガメ属3種(ミシシッピチ ズガメ、フトマユチズガメ(サ ビーンチズガメを含む)、ニ セチズガメ) | Graptemys spp. | | | | - | | - | | . - | - | | - | 北米 | - | 河川、池沼、湿地等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むへ き。 | ミシシッピチズガメG. kohnii、フトマユチズガメG. ouachitensis (サビーンチズガメG. o. sabinensis を 含む)、ニセチズガメG. pseudogeographica の3種。 アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量 が増加するおそれがあるため留意が必要。 | 要注意 | 第3回特定外来生物等分割門家グループ会合(爬虫刺類)、安川 (2005)、自然環センター(編著)(2008)、USG |
| 未定着 | i | その他 の定着 予防外 来種 | | | 旧要注意 | クーターガメ属 | Pseudemys spp. | | | | - | | - | | | - | | 1 | 北米、中米 | - | 河川、湖沼、湿地、汽水域等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | ほとんどの種がベットとして輸入されている。特にベニンシュラケーター P. peninsularis の輸入が多く、 安価に販売されている。 アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量 が増加するおそれがあるため留意が必要。 | 要注意 | 第3回特定外来生物等分門家グループ会合(爬虫教類)、安川 (2005)、自然環センター(編著)(2008) |
| 未定着 | ■ | その他 の定着 予防外 来種 | | | | チュウゴクセマルハコガメ | Cuora flavomarginata flavomarginata | | | | | | - | | | - | | 1 | 中国、台湾 | - | 森林とその周 辺、河川の周 辺、沼沢地、湿 原等 | ベットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 八重山諸島に亜種ヤエヤマセマルハコガメ C. f. evelynae が分布、沖縄島ではしばしば野外で個体、が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。本亜種の原するイシガメ科は属間交雑のおそれもあるため、特に留意が必要。 | その他 | 日本生態学会(編) (2002) al. (2004)、安川(2005) |
| 未定着 | ■ | その他 の定着 予防外 来種 | | | 旧要注意 | ハナガメ | Mauremys sinensis | | | | | | - | | | - | | , | 中国、台湾、ベトナム | - | 河川、池沼等 | ベットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 遺棄されたと考えられる個体が野外で見つかったことがある。 とがある。 アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。 | 要注意、 各身 愛知 | 第3回特定外来生物等分 計: 門家グループ会合(爬虫類)、安川 (2005)、自然理 センター(編著)(2008) |
| 未定着 | Î | その他 の定着 予防外 来種 | | | 旧要注意 | アメリカスッポン属 | Apalone spp. | | | | - | | - | | . - | - | | - | 北米、中米 | - | 河川、池沼、湿地等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | フロリダスッポン A. ferox、スペスッポン A. mutica、 トゲスッポン A. spinifera が国内で多数販売されて いる。 | 要注意、 各身 北海道 | 第3回特定外来生物等分 門家グループ会合(爬虫 類)、安川 (2005)、自然理 センター(編著)(2008)、US |
| 未定着 | Ť | その他 の定着 予防外 来種 | | | 特定外来 | ブラウンアノール | Anolis sagrei | | | | - | | - | | | - | | | 中米、西インド諸島 原産。北米、ハワイ、 ケイマン諸島、台湾 等に侵入。 | - | 森林、草原等 | かつてはペット等として飼養されて いた。現在は特定外来生物に指定 され輸入・飼養は規制されている が、学術研究等で許可を受けた個 体が飼養されている。 | 払い、放逐を厳に慎むべ | フロリダの侵入地では在来のグリーンアノールを駆逐している。 | 特定外来、 GISD | 第2回特定外来生物等分門家グループ会合(爬虫教類)、Lever (2003)、自然取センター(編著)(2008)、Hu (2008a, 2008b)、Kraus (20Latella et al. (2011)、ISSG |
| 未定着 | Ť | その他 の定着 予防外 来種 | | | 特定外来 | 特定外来生物のアノール属 (グリーンアノール、ブラウ ンアノール除く) | | | | | - | | - | | - - | - | | | 西インド諸島 | - | 森林、草原等 | かつてはペット等として飼養されて いた。現在は特定外来生物に指定 され輸入・飼養は規制されている が、学術研究等で許可を受けた個 体が飼養されている。 | 払い、放逐を厳に慎むべ | Anolis allogus, A. alutaceus, A. angusticeps, ナイト アノールA. equestris, ガーマンアノールA. garmani, A. homolechis の6種。 | 外来法:特定、 GISD(一部の種) | 第5・6・7 回特定外来生物 群専門家グループ会会(原 両生類)、Lever (2003)、臣 研究センター(編著)(2008) (2009)、Latella et al. (201 ISSG-GISD |
| 未定着 | Ė | その他 の定着 予防外 来種 | | | 旧要注意 | ヒョウモントカゲモドキ | Eublepharis macularius | | | - | - | - | - | | | - | | , | 南アジア~西アジア | - | 岩砂漠、低木林等 | 、 ベットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 爬虫類に病原性を持ち、在来種オピトカゲモドキに 致死性のある原虫 クリプトスポリジウム Cryptosporidium spp. に感染している場合があり、 在来爬虫類への感染が懸念される。 | 要注意 | 第3回特定外来生物等分門家グループ会合(爬虫類)、Terrell et al. (2003) (2005)、自然環境研究セン著)(2008) |
| 未定着 | i | その他 の定着 予防外 来種 | | | 特定外来 | ミナミオオガシラ | Boiga irregularis | | | | - | | - | | - | - | | | オーストラリア、ソロ モン諸島、ニューギニ ア、インドネシア原 産。 グアムに侵入。 | - | 森林等 | | さ払い、放逐を厳に慎むべ | 沖縄島で貨物への混入に由来すると考えられる個は体が捕獲されたことがある。弱毒だが咬まれると重体になることもある。 | | 第2回特定外来生物等分 門家グループ会合(爬虫 類)、Lever (2003)、自然取 センター(編著)(2008)、Kra (2009)、ISSG-GISD、 |
| 未定着 | | その他 の定着 予防外 来種 | | | | 特定外来生物のオオガシラ 属(ミナミオオガシラを除く) | Boiga spp. | | | | - | | - | | | - | - | | 南アジア〜東南アジ ア | - | 森林等 | かつてペット等として飼養されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | ミドリオオガシラB. cyanea、イヌパオオガシラB. Cymodon、マングロープへどB. dendrophila、ボウシ オオガシラB. nigiriceps の4種。 | 特定外来 | 第6回特定外来生物等分 門家グルーブ会合(爬虫類 類) |
| | 対策タ | | な外米 | 種(総 | 合対策外 | 米種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分布拡~まん | | 緊急対 策外来 種 | | | 特定外来 | カミツキガメ | Chelydra serpentina | | | | - | | - | | - | - | | - | 北米 - 南米 | 千葉で定着。各 県で確認記録 がある。 | 池沼、河川等 | かつてペットとして大量に飼養されていた。現在は特定外来生物に指定されたが、飼養は規制されているが、許可を受けた個体が多数飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ | 広義のカミツキガメを指す。4亜種(ホクベイカミツキガメ C.s. serpentina、フロリダカミツキガメ C.s. coscela、ナッペイカミツキガメ C.s. coscela、ナッペイカミツキガメ C.s. ではいるでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、たいまでは、ないまでは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、 | 特定外来、 W100:日本、 各県:北海道、千葉 愛知、京都、兵庫 | 親)、日本生態子云(編) (・ 白好理培研のわいねー(編 |
| | 达大期 ,延期 | 緊急対 策外来 種 | | | 旧要注意 | アカミミガメ | Trachemys scripta | | | | - | | - | | | | | - | 北米産。ハワイ、イン ドシナ、インド、ヨー ロッパに侵入。 | 小立房を除くは | 池沼、湖、河川、湿地等 | ペットとして大量に飼養されている。 | | 3亜種(ミシシッピアカミミガメ T. s. elegans、キパラ ガメ T. s. scripta、カンパーランドキミミガメ T. s. troosti)から成る。 ペットとして安価に大量に販売されている。 遺棄や 逸走が頻繁に生じていると考えられる。 流通等が規 制された場合に大量遺棄が生じないよう事前の対 策が求められる。といわけミシシッピアカミミガメは流 | 道、青森、千葉、知、滋賀、京都、 | 類)、日本生態子会(編) Lever (2003)、自然環境 夕一(編著)(2008)、有馬 |

| | | 対策 | 優先度の | | 特定外来 | | | | | - | | | 評価項 | | £\$1-1 | 日日日百 | | _ | | | | | | | | |
|--------------------|----------------|----------------|--------------|----------------------------|-------------|-------------------------|--------------------------------|------|-----------|--------------------|-------|----|-------------|-------|-------------|------|------|----------|---------------------------------|----------------------|-----------------------------------|--|---------------------------------|--|------------------------------------|--|
| 定着段階 | 皆 力 | テゴリ被害 | は一世に | 効性・ 行可能 | / 旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能 | | 生態系 | | 分布拡 | | 更 <u>なる</u> | 問題と | 逸出·拉 | | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| | | 20 | 9/32 | 性 | 767 | | | | 生物導 | 尊入 競 | 合交納 | 摂食 | 繁殖気 | 瓦候 10 | 人体 | 産業 | 利用 | 記入 | | | | | | | | |
| 小笠原·南 諸島 | 野西 緊 策 種 | 急対 外来 | | \$ | 持定外来 | グリーンアノール | Anolis carolinensis | , | | | - | | - | | - | - | | | 北米南東部原産。ミ クロネシア、ハワイ等 に侵入。 | 小笠原父島、兄島、母島、沖縄島、座間味島 | , 森林、林縁、農 耕地等 | かつてベット等として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 小笠原諸島で深刻な生態系被害を引き起こしている。2012年に兄島への侵入が確認され、根絶に向けた取組が進められている。 | 特定外来、 W100: 日本、 GISD、 各県: 沖縄 | 第2回特定外来生物等分 門家グループ会合(爬虫 類)、日本生態学会(編) Lever (2003)、自然環境 ター(編著)(2008)、阿部 (2 Kraus (2009)、Toda et al. Shimizu (2013)、大河内 (ISSG-GISD |
| 小笠原·南 诸島 | 野西 策 策 | 急対外来 | | # | 持定外来 | タイワンスジオ | Elaphe taeniura friesei | | | | - | | - | | - | - | | - | 台湾 | 沖縄島 | 森林、農耕地等 | 展示用、食用、薬用に導入されたと 考えられる。現在は特定外来生物 に指定され輸入・飼養は規制されて いるが、許可を受けた個体が飼養さ れている。 | 払い、放逐を厳に慎むべ | 先島諸島には同種の別亜種サキシマスジオE.t. schmackeri が生息する。 | 特定外来. 各 県:沖縄 | 第2回特定外来生物等分門家ゲループ会合(爬虫類)、日本生態学会(編)(Ota et al. (2004)、自然環センター(編著)(2008)、阿(2009)、寺田(2011) |
| ∖笠原·南 諸島 | 野西 繁 策 種 | 急対外来 | | \$ | 持定外来 | タイワンハブ | Protobothrops mucrosquamatus | , | | | | | | | | - | | _ | 台湾 | 沖縄島 | 森林、農耕地等 | 展示用、食用、薬用として導入されたと考えられる。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | | へどを用いたショー及び薬用として、1970年代から 1990年代半ばまで沖縄島に大量に輸入されていた。これらの逸出か遺薬に由来すると考えられる。 在来ハブとの交雑個体と考えられるへどが採集されている。 | 特定外来、 各 県:沖縄 | 第2回特定外来生物等タ 門家グループ会合(爬虫類)、日本生態学会(編) Ota et al. (2004)、自然環センター(編著)(2008)、阿 (2009)、寺田 (2011) |
| 重点対策 | 策外 | 来種 | | | | • | • | | | | | | · · | - | | | | | | | | • | ' | | | • |
| 小笠原·南 諸島 | 重 | 点対 外来 | | | 日要注意 | グリーンイグアナ | lguana iguana | | | | - - | | - | | - | | | - | 中南米、西インド諸島 | 石垣島 | 森林等 | ベットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の 集積が必要。 | 要注意、 GISD | 第3回特定外来生物等外門家グループ会合(爬虫類)、Lever (2003)、自然センター(編著)(2008)、阿(2009)、Kraus (2009)、IS: |
| その他の | の総言 | う対策外 | 小来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | , | , | | | | | _ |
| E着初期, 限定分布 | / m | か他 総合 策外 | | | | ミナミイシガメ | Mauremys mutica mutica | | | | | | - | | - | - | | - | 中国、台湾、ベトナム | 大阪、京都、滋賀 | 池沼や低湿地、小さな水路等 | ベットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 八重山諸島に亜種ヤエヤマイシガメ M m. kami が 分布、本亜種の属するイシガメ料は属間交雑のお それもあるため、特に留意が必要。 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の 集積が必要。 | その他 | 日本生態学会(編) (2002 al. (2004)、自然環境研究 (編著)(2008)、小林·長名 |
| 定着初期, 限定分布 | / の | か他 総合 策外 | | / | 旧要注意 | チュウゴクスッポン | Pelodiscus sinensis sinensis | | | | - | | - | - | - | - | | - | ベトナム南部から中 国大陸沿岸部、ロシ ア極東地域 | 沖縄島以南の 琉球列島 | 河川の中・下流 域や池、湖沼等 | 水産資源としての価値が高く、食用 や養殖用に生体の流通が多い。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | ニホンスッポンの同物異名と見なす考えもある。ただし、日本本土の集団と台湾や香港の集団の間には比較的明瞭な遺伝的差違があるとされる。 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の 集積が必要 | 要注意、各県: 北海道、青森、愛 知、兵庫 | 第3回特定外来生物等分門家グループ会合(爬虫類)、日本生態学会(編) 自然環境研究センター(組著)(2008) |
| 定着初期,限定分布 | / の | か他 総合 策外 | | | | スインホーキノボリトカゲ | Japalura swinhonis | | | $\sqrt{}$ | - | | - | - | - | - | - | | 台湾 | 静岡 | 森林、林縁、農耕地、住宅地等 | ベットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 輸入植物への混入による侵入と推測されている。生 息実態及び生態系等への影響に関する知見の集 積が必要。 | | 加藤ほか(2010, 2013) |
| | | | | | | | • | • | | | | | | | | | | | | • | • | • | • | | | • |
| 内由来 定着段階 | 谐 カ | 対策 対策 | 害の深 実行 対度 | · = = 1 効性・ 行可能 性 | | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能 生物 導 | 能性 | 生態系 | | 評価項分布拡 繁殖 気 | 大雷 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 寸着 昆入 | 原産地 | 問題となっている地域 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 《之间》 重点対象 | | | 外米植 | [(総合 | 計対策外 | ·米種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 国内由来6外来種 | の 重 | 点対 外来 | | | | 沖縄諸島のヤエヤマセマル ハコガメ | Cuora flavomarginata evelynae | | | | | - | - | | - | - | - | - : | 石垣島、西表島 | 沖縄島、宮古島、黒島等 | 森林とその周 辺、河川の周 辺、沼沢地、湿 原等 | 国の天然記念物に指定されている ことから飼養は規制されているが、 許可を受けた個体が飼養されてい る。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の 集積が必要、ヤエヤマセマルハコガメは国の天然 記念物に指定されている。しばしば野外で個体が確 認され、定着している可能性もあるが、これらの亜 種は確定されていない、リュウキュウヤマガメとの雑 種と思われる個体も確認されている。 | その他 | Ota (1999) |
| 国内由来(外来種 | の策 | 点対 外来 | | | | 沖縄諸島及び宮古諸島の ヤエヤマイシガメ | Mauremys mutica kami | | | | - | | - | | - | - | | - | 石垣島、西表島、与那国島 | 沖縄島、阿嘉島、宮古島等 | 河川、池沼、湿地等 | ベットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の 集積が必要、しばしば野外で個体が確認され、定着 している可能性もあるが、これらの亜種は確定され ていない。 | その他 | Ota (1999), 前之園·戸日小林·長谷川(2005) |
| 国内由来の | の策 | 点対 外来 | | | | 琉球列島のニホンスッポン | Pelodiscus sinensis japonicus | | | | - | | | _ | - | - | | - | 本州、四国、九州 | 大隅諸島、奄美諸島 | 池沼、河川等 | 食用、養殖用として持ち込まれたと 考えられる。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の 集積が必要。 | | 日本生態学会(編) (200) 環境研究センター(編著 |
| 国内由来の 外来種 | の策 | 点対 外来 | | | | カ州のオキナワキ / ボリトカ ゲ | Japalura polygonata polygonata | | | | | | - | - | - | - | | - | 奄美諸島、沖縄諸島 | 宮崎県日南市、鹿児島件指宿市。屋久島。 | 森林等 | ベットとして飼養されている。 | | 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の 集積が必要。九州南部の個体群につていは生態、 防除法等についての研究が行われている。 | | 日本爬虫両棲類学会 (2 田他 (2013), Jono et al. |
| 国内由来の 小来種 | の策 | 点対 外来 | | / | | 伊豆諸島のニホントカゲ | Plestiodon japonicus | | | $/\!\!/\!\!\lceil$ | | - | - | | - | - | - | | 近畿中・北西部 ~ 西 日本と周辺島嶼 | 八丈島 | 森林、農耕地、 住宅地等 | ベットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ | 本種の分類が見直され、東日本とロシア沿海州の ものは別種とガシニホントカゲ P. finitimus とされ た、八丈島の外来個体群は狭義のニホントカゲ。 オカゲトかどの交雑が確認されている。 | | 栗山ほか(2009)、Okamo (2013) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(両生類)>

【国外由来の外来種】

| | | //I'/\\T | 対策優 | | は緊急対策外 | 来種·重点対策外来種のみ記入 T | T | | | | | | | | | | | T | | | | | 1 | | 2015.03.26 |
|-----------------|-------------|-------------------------------|------------|----------------------|-----------|--|--|------|-----------|--|-----------------|--------------------|------------|---------|-------------|-----|-----------------|---|---|------------------------------|---|---------------------------------|---|---|---|
| l. l | | • | 対策優先 | | 特定外来 | | | - 定 | 着可能性 | 生育 | 態系被害 | | 斯項目 F拡大 | 特 | きに問題 なる被 | 題と | 出·拡散 | | | | 21-11- | | | | |
| No 定着 | 段階 | カテゴリ | 被害の深 刻度 | 実効性・ 実行可能 性 | /旧要注 意 | 和名 | 学名 | 选足压田 | | | 交雑損 | | | 重要 地域 人 | なる被 体 経 | 害 ~ | | 」 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 宁薯友- | 子できる | ス外本 | 2種/完 | <u>:</u> | 外来種) | | | 1 | 一一一 | XX CI | ^{文雅} 摄 | 食 ^{糸75} | XIIX | | 産 | 業 | ^元 混入 | | | | | | | | |
| | | 外来種 | | - J.M. | 小水性) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 未定 | | 侵入予 防外来 種 | | | 特定外来 | コキーコヤスガエル | Eleutherodactylus coqui | | | | - | | | - | - | | - | ブエルトリコ原 産。小アンティ ル、フロリダ、ハ ワイ、ガラパゴス に侵入。 | - | 森林を中心に幅 広い環境に生 息。 | かつてペット等として飼養されて いたことがあるが、現在は特定外 来生物に指定され、輸入・飼養等 は規制されている。 | - | 海外では貨物などに紛れて移動したと考えられている。導入されたハワイ島では高密度に 生息し、観光ホテル等で鳴き声による騒音被 害が発生している。 | 特定外来、 W100:IUCN、 GISD | 第3回特定外来生物等分類群専門家 グループ会合(爬虫類・両生類)、 Lever (2003)、自然環境研究センター (編著) (2008)、Beard et al. (2009)、 Kraus (2009)、Olson et al. (2012)、 ISSG-GISD、USGS-NAS |
| 2 未定 | | 侵入予 防外来 種 | | | | ジョンストンコヤスガエル | Eleutherodactylus johnstonei | | | | - | | | - | - | - | - | 小アンティル諸島 原産。ベネズエ ラ、ジャマイカ等 に侵入。 | - | 農耕地、荒地、都市、湿地等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 生息実態及び生態系等への影響に関する知 見の集積が必要。 | GISD | Lever (2003), Kraus (2009), ISSG- GISD |
| 3 未定 | | 侵入予 防外来 種 | | | 未判定 | オンシッガエル | Eleutherodactylus planirostris | | | | - | | | - | - | - | - | 大アンティル諸島 原産。ジャマイ カ、メキシコ、フロ リダ、グアム、ハ ワイ等に侵入。 | - | 森林、農耕地、草地、湿地等 | かつてペット等として飼養されて いたことがあるが、現在は輸入・ 飼養は規制されている。 | - | 生息実態及び生態系等への影響に関する知 見の集積が必要。 | 未判定外来、 GISD | Lever (2003), Kraus (2009), ISSG- GISD, USGS-NAS, IUCN-red list |
| 4 未定 | 当 | 侵入予 防外来 種 | | | 特定外来 | キューパズツキガエル(キューパアマガ エル) | Osteopilus septentrionalis | | | | - | - | | - | - | - | - | キューバ、バハマ 等原産。フロリ ダ、ブエルトリコ、 小アンティル諸 島、ハワイ等に侵 | - | 森林、草原、湿地、住宅地等。 塩分耐性もある。 | かつてペット等として飼養されて いたことがあるが、現在は特定外 来生物に指定され、輸入・飼養等 は規制されている。 | - | 皮膚粘液による上位捕食者への影響も考えられる。捕食性が強く、他のカエルも餌とする。 | 特定外来 | 第3回特定外来生物等分類群専門家 グループ会合(爬虫類・両生類)、 Lever (2003)、自然環境研究センター (編著) (2008)、Kraus (2009)、ISSG- GISD、USGS-NAS |
| ₹0 | 他の記 | 定着予 | 防外来 | 種 | | | | | ' | | - | | | | | | | 17 % | | 1 | 1 | • | | | |
| 5 未定 | = - | その他 の定着 予防外 来種 | | | 特定外来 | 特定外来生物のヒキガエル属(オオヒキガエルを除く) | Bufo spp. | | | | - | - | | - | - | - | | 北米~南米 | - | 森林、草原、農 耕地等、種に よって異なる。 | かつてベット等として飼養されて いたことがある。現在は特定外来 生物に指定され、輸入・飼養等は 規制されているが、許可を受けた 個体が飼養されている。 | を払い、放逐を厳に慎 | ブレーンズヒキガエルB. cognatus、キンイロヒ キガエルB. guttatus、アカボシヒキガエルB. punctatus、オークヒキガエルB. quercicus、テ キサスヒキガエルB. speciosus、コノハヒキガ エルB. typhoniusの6種。 | | 第6回特定外来生物等分類群専門家 グループ会合 (爬虫類・両生類)、 Lever (2003)、自然環境研究センター (編著) (2008)、Kraus (2009) |
| 6 未定 | | その他 の定着 予防外 来種 | | | 旧要注意 | ヨーロッパミドリヒキガエルなどヒキガエル属5種(ヨーロッパミドリヒキガエル、テキスミドリヒキガエル、ナンブヒキガエル、ガルフコーストヒキガエル、ロコロヒキガエル(キャハンヒキガエル)) | Bufo spp. | | | | - | - | | - | - | - | | ヨーロッパ、北 米、南米 | - | 森林、草原、農 耕地等、種に よって異なる。 | ベット等の目的で国内で飼育され ていることがある。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | ヨーロッパミドリヒキガエルB. viridis、テキサスミドリヒキガエルB. debilis、ナンブヒキガエル B. terrestris、ガルフコーストヒキガエルB. valliceps、ロココヒキガエル(キャハンヒキガエル) B. paracnemisの5種。 | 要注意 | 第3回特定外来生物等分類群専門家 グループ会合 (爬虫類・両生類)、 Lever (2003)、自然環境研究センター (2008)、Kraus (2009) |
| 7 未定 | | その他 の定着 予防外 来種 | | | | アジアジムグリガエル | Kaloula pulchra | | | | - | - | | - | - | - | | 南アジア ~ 東南 アジア ~ 中国原 産。ボルネオ、ス ラウェシに侵入。 | - | 森林、水辺等 | ベット等の目的で国内で飼育され ていることがある。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 輸入貨物への混入例が確認されている。 | その他 | Lever (2003), Massam et al. (2010), Kraus (2009), USGS-NAS |
| 8 未定 | i | その他 の定着 予防外 来種 | | | 未判定 | ヘリグロヒキガエル | Bufo melanostictus | | | | - | - | | - | - | - | | 南アジア~東南アジア | - | 森林、草原、農 耕地等 | かつてベット等として飼養されて いたことがあるが、現在は輸入・ 飼養は規制されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 輸入貨物への混入例が確認されている。 | 未判定外来 | Lever (2003), 自然環境研究センター (編著) (2008), Massam et al. (2010), Kraus (2009) |
| | | | | 来種(総 | 合対策タ | · 上来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 京·南 | 外来種 緊急対 策外来 種 | | | 特定外来 | オオヒキガエル | Bufo marinus (Rhinella marina) | . / | | / | - | | | | | - | | 北米南部~南米 北部 | 小笠原諸島、大 東諸島、先島諸 島 | 森林、農耕地、水路等 | 害虫駆除のために導入された。 現在は特定外来生物に指定され 輸入・飼養等は規制されている が、展示等で許可を受けた個体 が飼養されている。 | を払い、放逐を厳に慎 | 耳腺からの毒液により、カエルの捕食者が死亡することがある。 | 特定外来、 W100:日本· IUCN, GISD, 各県:沖縄 | 第 2 回特定外来生物等分類群専門家 グループ会会 (爬虫類・両生類)、 Lever (2003)、日本生態学会(編著) (2002)、Ota et al. (2004)、前之園・戸 田 (2007)、自然環境研究センター(編 著) (2008)、Massam et al. (2010)、 Kidera et al. (2008a, 2008b)、Kraus (2009)、ISSG-GISD、USGS-NAS |
| | | 外来種 | į | | 1 | T | T | | 1 | , , | ÷ | | | | Ė | | | | | | | 1 | 1 | | |
| 10 定着花限定点 | 卯期 / 身 | 重点対 策外来 種 | | | | チュウゴクオオサンショウウオ | Andrias davidianus | | | | | - | | - | - | - | - - | 中国 | 京都 | 河川 | かつて食用に輸入されたいわれ ているが詳細は不明。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 遺伝子浸透によるオオサンショウウオへの影響 | 各県:京都、兵 庫 | 松井(2005, 2009) |
| 11 分布 11 ~ま/ | 広大期 | 重点対 策外来 種 | | | 特定外来 | ウシガエル | Rana catesbeiana(Lithobates catesbeianus | | $/\!/$ | | - | | | - | - | - | - | 北米原産。メキシュ、大アンティル諸島、ヨーロッパ、東南アジア、中国、台湾等に侵入。 | 北海道南部以 南の日本列島 のほぼ全域 | 池沼等 | かつて食用に輸入され、養殖され ていた。現在は特定外来生物に 指定され、輸入・飼養等は規制さ れているが、学校教材等で許可を 受けた個体が多数飼養されてい る。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。小笠原諸島では根 絶された。 | 特定外来、 W100:日本· IUCN、GISD、 各県:北葉、京 育森、滋賀、取、油 庫、集本、沖縄 崎、熊本、沖縄 | 第3回特定外来生物等分類群専門家 グループ会会 (爬虫類・両生類)、日本 生態学会(編著) (2002)、Lever (2003)、Hirai (2004)、Ota et al (2004)、 前之園・戸田 (2007)、自然環境研究セ ンター(2008)、Kraus (2009)、Atobe et al. (2014)、ISSG-GISD、USGS-NAS |
| 12 小笠/ 西諸! | | 1= | | | 特定外来 | シロアゴガエル | Polypedates leucomystax | , / | | | - | - | | | - | - | | 南アジア~東南 アジア | 与論島、沖縄諸島、宮古諸島、 島、宮古諸島、 五垣島、北大東 島 | 森林、農耕地、 住宅地等 | かつてベットとして飼養されていた、現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けてた個体が飼養されている。 | を払い、放逐を厳に慎 | 外来の寄生虫が確認されている。 | 特定外来、 W100:日本 | 第3回特定外来生物等分類群専門家 グループ会合(爬虫類・両生類)、日本 生態学会(編者) (2002)、Lever (2003)、Ota et al. (2004)、前之園・戸田 (2007)、自然環境研究センター(2008)、 Kraus (2009)、田場ほか (2013) |
| ₹ 0 | 他の細 | 総合対 | 策外来 | 植 | 1 | I | 1 | | 1 | <u>/ </u> | - | $\overline{}$ | | | - | - | | | | 1 | | <u> </u> | 1 | | 空 7 同柱字从 女开航空八条群市四点 |
| 23 定着 | 卯期 / (| その他 の総合 対策外 来種 | | | 旧要注意 | アフリカツメガエル | Xenopus laevis | | $/\!\! /$ | | - | - | | - | - | | - | アフリカ中南部 | 千葉、静岡、和 歌山 | 池沼等 | 実験動物、ベットとして大量に飼養されている。 | を払い、放逐を厳に慎 | カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されているが、評価未了, 鯉養殖場でコイの幼魚が食べられる被害。 | 要注意、 各 県:千葉 | 第3回特定外来生物等分類群専門家 グループ会合 (爬虫類・両生類)、 Lever (2003)、小林・長谷川(2005)、荒 尾・北野 (2006)、Massam et al. (2010)、自然環境研究センター(編著) (2008)、Kraus (2009)、光岡ほか (2011)、ISSG-GISD、USGS-NAS |

【国内由来の外来種】

| 【国 | 为由来(| の外来種】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--------------|--------------------------|-----------------------|-------------------------|-------------------------|------|-------|---------|--------------------|---|-------|-----|------|------------------------------------|--------------------------------------|---------------|----------------|---------------------------------|--|-------|---|
| | | 対策優先度の要性 実効 被害の深 実行 刻度 性 | ■ 特定外来 性・/旧要注 意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能性 | 生態系統合交納 | 評価項目分布拡大 数值 気候 | | 人体産 | 済料用 | 付着混入 | 分布 | 問題となっている地域 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 総合 | 的に対 | 策が必要な外来種 | 総合対策外来 | 種) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 重点対策 | 外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 国内由来の ト来種 | 重点対 策外来 種 | 伊豆 | 豆諸島などのアズマヒキガエル | Bufo japonicus formosus | | M | - | - | | - - | - | - | 島根半島、鳥取県、近畿地方北部、志摩半島-紀伊半島中部、中部地方以東 | 北海道、佐渡、伊豆諸島 | 森林、農耕地、草原、公園等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 八丈島では駆除が実施されている。 | | 日本生態学会(編著) (2002)、後藤·岩崎(2012) |
| 2 | 国内由来の ト来種 | 重点対 策外来 種 | 関東 | 東以北及び島に侵入したヌマガエル | Fejervarya kawamurai | | M | - | - | - | | - | - | 四国、九州、奄美諸島、沖縄諸島、 | 関東、長崎(島 嶼部:ただし平 戸島は在来)、 種子島 | 水田、河川敷等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | カエル類の中で近年の侵入が最も頻繁に生じている種であり、その貪欲な食性により他種に 影響を与える可能性が示唆されているため注 意を要する、生息実態及び生態系等への影響 に関する知見の集積が必要。 | 各県∶千葉 | 長谷川・小賀野 (1998)、林ほか (2000)、森口ほか (2004)、三谷ほか (2009)、福山ほか (2010)、小鹿野ほか (2005) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(魚類)>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入 2015.03.26 評価項目 対策優先度の要件 特定外 特に問題と 重要 なる被害 逸出・拡散 定着可能性 生態系被害 分布拡大 被害の深し実効性・ 定着段階 カテゴリ 学名 原産地·分布 日本での分布 生息環境等 利用状況 利用上の留意事項 備老 抽出根拠 **学**插文 / 旧要活 地域 人体 経済 利用 付着 産業 利用 混入 生物 導入 競合 交雑 捕食 繁殖 気候 定着を予防する外来種(定着予防外来種) 侵入予防外来種 doski and Whitney 霞ヶ浦などで定着しているチャネル (2003). Etnier and 侵入予防 可川緩流域の低質が柔らが アメリカでは移入された湖の在来のトゲウオを駆逐した例があ 未判定外来。 キャットフィッシュと原産地の分布域 未定着 アメリカ東部 利用に関する情報は得られなかった。 未判定 ブラウンブルヘッド Ameiurus nehulosus Starnes (1993) が重なるため、同様の環境への放流 oschung and Mayden 2004), GISD data sheet Boschung and Mayden (2004), Etnier and 倒木や枯れ枝が沈んでいる 池の斜面が緩やかな場所を利用に関する情報は得られなかった。 アメリカでは本種が侵入した水域で、同科の在来ナマズ類やサ フラットヘッドキャットフィッ 未定着 _{夫判定} Pylodictis olivaris アメリカ東部、中部 外来種 リガニ類などの減少が見られている。 tarnes (1993), Wydos nd Whitney (2003) 中・大規模河川の止水部分 肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。こ アメリカ北東部の沿 や池に生息、主に汽水域に メリカの各地で本種が在来種の卵を捕食することによる影響が ner (2004), GISD 未定着 ホワイトパーチ Morone americana 利用に関する情報は得られなかった GISD 報告されている。塩分耐性が強く、海を通じて水系を超えた移 生息するが、淡水域にも生 ata sheet 低地から高地までの河川、 イギリスや北米のいくつかの地域で、捕食や競合によって在来 イギリスからロシア otteat and Freyhof 未判定外来 未判定 富栄養湖。大河川の河口や 利用に関する情報は得られなかった。 汽水湖に多い。 (2007), Lever (1996), GIDS data sheet 未定着 ラッフ mnocenhalus cernuus 中国までのユーラシ 種の減少などの悪影響を及ぼした事例がある。最長10年生き 大河川の汽水域や湖沼 湯 アゾフ海、黒海、カス アメリカの五大湖などで、産卵環境や餌の競合、卵の食害など tteat and Freyhof 未定着 ラウンドゴビー こどの底質が砂や岩である 利用に関する情報は得られなかった。 GISD によって、在来種の減少を引き起こしている。 その他の定着予防外来種 Etnier and Starnes (1993), Goldstein et al.(2000), Boschung and -般的な観賞魚として多く流通してい 。一部の種は比較的安価に稚魚が販 ガー類は大型になるため、飼い切れなくなる可能性がある。野外への放 国内で遺棄された大型個体の捕獲が相次ぎ、長期間生存できることは明らかであり、将来、繁殖に成功した場合、急速に増 各県∶滋賀、佐 中央アメリカから北 定着予防 未定着 河川(汽水-淡水域)、湖沼 る。一部の種に 売されている。 米、カナダ Mayden (2004)、自然環 境研究センター (編著) その他 加するおそれがある。 **卜来**種 流は厳に慎むべき。 温帯性であるため、特に、本州中部 毎外では近縁種と雑種を作ることや競合することによって、希 Etnier and Starnes 河川中流域の底が砂泥や 観賞魚として一般に広く普及している種 アメリカ中央南部か 未定着 定着予防 レッドホースミノー GISD Syprinella lutrensis 以南では野外への放流は厳に慎む 少種を含む在来種の減少を引き起こしている。ただし、日本に (1993), Boschung and Mayden (2004), GISD 中央北部 岩の池や水路に生息。 で、安価で大量に流通している。 同属種はいない。 ヨーロッパの侵入地では在来種の減少を引き起こしたとされて いる。在来の同属種との交雑も懸念されている。 在来の同属種と交雑のおそれがあるため、これらの生息域で 県:滋賀 その他の 定着予防 常に大型になるため、飼いきれな 自然環境研究センター 観賞魚として比較的安価に大量に流通 未定着 日要注意 ヨーロッパナマズ 中央・東ヨーロッパ Silurus alanis なる危険がある。野外への放流は厳 (編著) (2008) Kotteat 气水域に入ることもある。 値むべき. and Freyhof (2007) け特に侵入に留音が必要 白然環境研究センター 観賞魚として飼養されていた。 現在は特定外来生物に指定され、 輸入・飼養等は 規制されている。 展示用等で許可を受け その他の 定着予防 アメリカ北部、カナ 可川緩流域や湖沼に生息 (編著) (2008)、Etnier アメリカのデービス湖では捕食や競争により在来魚類に影響を 与えた事例がある。長寿命であり、最長24年生きた例がある。 未定着 特定外来 / ーザンパイク ダ、ヨーロッパ、アジ ア北部 野外への放流は厳に慎むべき。 、水草の多い場所を好 い。冷水性。 GISD、 各県: 佐 and Starnes (1993)、 Esox lucius Kotteat and Freyhof た少数が利用されている。 自然環境研究センター 河川緩流域や湖沼に生息 し、水草の多い場所を好 む。冷水性。 観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は野外への放流は厳に慎むべき。 規制されている。 ウィスコンシン州の湖では同所的に生息するオオクチバスを駆逐するなどの被害が確認されている。長寿命であり、最長30年 (編著) (2008)、Boschun and Mayden(2004)、 Kotteat and Freyhof アメリカ北東部とカナ 特定外来。 0 未定着 定着予防 特定外来 マスキーパイク (2007) 自然環境研究センター 可川緩流域や湖沼に生息 し、水草の多い場所を好 マスキーパイクやノーザンパイクと同じ科に属し、生態が似ているためにこれらの種と同様の影響を及ぼす可能性が高いと (編著) (2008)、Etnier かつては観賞魚として流通していた種も ある。 現在は輸入等が規制されている。 未判定外来、 各県:佐賀 7メリカ大陸とユー 1 未定着 定着予防 外来種 未判定 パイク科 野外への放流は厳に慎むべき ア大陸の北部 nd Starnes (1993), doski and Whitney 2003) 自然環境研究センター その他の 定着予防 -ストラリアでは希少種を含む在来魚の卵や仔稚魚の捕 カティンと主張がほといって、スペーストフリアでは布ン性を占むな不無のが下げ、1年底の別 外に放流するとカダヤシ同様に広ま る危険があるため、注意を要する。野 関いたのが近日鮮に痛れべき 観賞魚としてご〈稀に流通している。輸 未判定外来、 アメリカ東部の沿岸 (編著) (2008) 、Francis 12 未定着 未判定 ガンブシア・ホルブローキ Gambusia holbrooki 無い用水路に生息するが、 入等は規制されている。 eds. (2012), Kotteat and 河川本流や湖沼にも生息。 reyhof (2007) 観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は 規制されている。展示用等で許可を受け 自然環境研究センター その他の 定着予防 (編著) (2008)、土井·青山 (2004)、Doi et al. アムール川水系、中 中国では養殖池に紛れ込んだ場合に他種を捕食する害魚とさ 13 未定着 特定外来 ケツギョ 可川緩流域や湖沼に生息。 野外への放流は厳に慎むべき。 特定外来 Siniperca chuatsi 外来種 た少数が利用されている。 観賞鱼として飼養されていた。現在は特 自然環境研究センター 1川や湖辺に生息し、ケツ 設員無ともでいる。 定外来生物に指定され、輸入・飼養等は 規制されている。展示用等で許可を受け た少数が利用されている。 中国、朝鮮半島、ベ ナム 4 未定着 特定外来 コウライケツギョ 野外への放流は厳に慎むべき。 特定外来 (2004) Doi et al. 非常に大刑にかるため遺棄の各除性 自然環境研究センター 湖、河川緩流域、水路など に生息し、湖では沿岸部に 分布する。 一般的な観賞魚として、広く普及してお が高く、南西諸島や沖縄、温泉水の び、価格も安価で比較的普通に流通して 川では野外への放流は厳に慎むべ 肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アフリカの湖で在来のシクリッド200種以上が絶滅した事例があ 西アフリカからナイル 15 未定着 定着予防 外来種 (編著) (2008)、Goldstei et al. (2000)、Lever 日要注意 ナイルパーチ Lates niloticus V100: IUCN, 本種そのものの利用はほぼ無いが、本 自然環境研究センター 維種同士では繁殖出来ないが、長寿 種と同じ(特定外来生物であるホワイト (編著) (2008) Boschur 内湾や河口域に生息し 商 アメリカ大西洋岸とカ でスとの維持がストライパーとして国内 命であるため捕食や競合による影響 内食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニ の管理釣り場で利用されている。雑種もを長期間与える可能性があり、雑種 寺定外来生物に指定され、輸入・飼養等も野外への放流は厳に慎むべき。 nd Mayden(2004), tnier and Starnes 6 未定着 定着予防 特定外来 ストライプトバス ナダのセントローレ: ス川流域 特定外来 1993), Wydoski and は規制されている. hitney (2003) 本種そのものの利用は無いが、本種と 自然環境研究センター (編著) (2008)、Bos and Mayden(2004)、 河川緩流域や湖沼に生息 し、産卵のために河川を遡 上する。 アメリカ東部とカナタ 肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のカウェア湖とその下流では駆除対象となっている。 定着予防 外来種 特定外来 ホワイトバス 未定着 Morone chrysops のセントローレンス川 流域 tnier and Starnes 1993). Wydoski and 制されている。 Whitney (2003) 観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は 野外への放流は厳に慎むべき。 規制されている。 オーストラリアで競合によって在来の希少種を絶滅させた事例がある。スペインのダムでも外来種を含む魚類を減少させた例がある。長寿命であり、最長10年生きた例がある。 河川緩流域、湖沼などに生 tteat and Freyhof 特定外来、 ヨーロッパとアジアオ 定着予防 外来種 8 未定着 寺定外来 ヨーロピアンパーチ Perca fluviatilis 息し、木の根が張り出したり 水草が豊富な場所を好む。 2007), Lever (1997), GIDS data sheet otteat and Frevhof トルコでは本種の導入後に在来種が見られなくなった例があ (2007), Lever (1998), Invasive Species Compendium HP 可川緩流域や湖沼に生息 る。デンマークやスペインなどのヨーロッパ諸国で在来のカワカマス科魚類などの減少を引き起こしているとされる。最長16年 ローロッパ中央部が 19 未定着 定着予防 特定外来 パイクパーチ Sander lucioperca 、深みのある語籍か水域 利用に関する情報は得られなかった。 野外への放流は厳に慎むべき。 特定外来 ューイン・ ら西アジア

| | | | 変優先度の | 特別 | E外来 | | | | | - AF-111 | 4 85 77 14 | | 評価項目 | | 特に問 | 題として | 11 44-94 | _ | | | | | | | |
|-----------------------|-------------|---------------------|----------------|----------------------|------------|---------------------------|-----------------------------------|------|-----------|-----------|------------|---|---------------|----|-----|---|------------------|--------------------------|---|--|---|---|---|---|---|
| No 定着 | 段階 | カテゴリ 被語 す | 害の深 実 対度 実行 | 効性・ / デ可能 性 | 意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可 生物 | | 生態系被 | | 分布拡大 繁殖 気候 | 重要 | なる被 | 空音 選問 | 出·拡散 付着 混入 | ·原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 20 未定着 | 1 | その他の 定着予防 外来種 | 4 | | 7 | スポッテッドティラピア | Tilapia mariae | , | | - | - | | | - | - | - | - | アフリカ大陸西部の ギニア湾周辺諸国 | - | 沿岸域の沼や河川下流域 に生息。 | 国内ではほとんど流通していない。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | 餌や産卵基質を巡る競争により在来種に悪影響を及ぼしている。巣で親魚が卵と仔魚を保護する。 | GISD | FishBase, GISD data sheet |
| 21 小笠原島 / 未2 | | その他の 定着予防 外来種 | // | | | オリノコセイルフィンキャット フィッシュ | Pterygoplichthys multiradiatus | | | | - | | - | - | - | | - | オリノコ川流域 | - | 河川、湖沼の泥底で水草が 生える水域に生息する。 | 、セイルフィンブレコなどの名前で複数種 が流通している可能性があり、本種がこれに含まれる可能性がある。 | 特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川 では野外への放流は厳に慎むべき。 | インドやブエルトリコでは本種が在来種の減少を引き起こした 例が知られている。 | GISD | FishBase, GISD data sheet |
| | 対策が 対策外: | 必要な外 来種 | 来種(編 | 合対策 | 外来 | 種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 分布拡ま | | 緊急対策 外来種 | | 特定 | E外来(| チャネルキャットフィッシュ アメリカナマズ) | lctalurus punctatus | | | | - | | - | - | | | - | アメリカ、カナダ南 部、メキシコ | 福島、霞ヶ浦、 北浦、 城城、 京村城、 京、 東京、 東京、 道湖、 長 道 道 道 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 | 、 河川下流、湖沼などの流れ が緩やかな場所に生息。 | 現在は特定外来生物に指定され輸入・ 調養等は規制されているが、許可を受 けて利用されているものもある。 茨城県 霞ヶ浦や岐阜県下小鳥ダムで養殖され ている。 地域の名物として利用されてい る。この他、展示用の利用も少数ある。 | 養殖地から自然水域に逸出させてな らない。 | 霞ヶ浦ではイサザアミやハゼ類などの水産利用種を捕食し、これらの漁獲高を減少させている。ヒレにある鋭い棘で漁業者がけがをする被害がある。 | 特定外来、 各県:熊本 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、石川ほか(編) (2013) |
| 23 分布拡 まん延算 | | 緊急対策 外来種 | | 特定 | E外来 7 | ブル - ギル | Lepomis macrochirus | , | | | - | | | | | | | カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部 | 全国 | 主に流れの緩やかな河川下流域や湖沼に生息。 | 現在は特定外来生物に指定され輸入・ 飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が主に展示用として多く利用さ れている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | | 特定外来、 W100:日本、 各県:北海道、青森、千葉、滋賀、 京都、兵庫、鳥取、佐賀、熊本 | 川那部・水野・細谷(監修・編) (2001)、自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松沢 (2008) |
| 24 分布拡 まん延算 | | 緊急対策 外来種 | | 特定 | ᢄ外来 □ | コクチバス | Micropterus dolomieu | | | | - | | | - | - | | - | カナダ南部、アメリカ中東部 | 青森から和歌山までの山梨を除く19都道県 | 主に湖沼に生息するが、流れのある河川にも見られる。オオクチバスよりも流水域に適応できる。 | 関食寺は税削されている。 走着している 地かじでは免免にかっても1 一部の地 | | | W100:日本、 | Lever (1996)、川那部・水 野・細谷(監修・編) (2001)、Woodford et al. (2005)、自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬 能・松沢(2008) |
| 25 分布拡 まん延 | | 緊急対策 外来種 | | 特定 | E外来 ス | オオクチバス | Micropterus salmoides | , | | | - | | | | - | | - | カナダ南部、アメリカ 中東部、メキシコ北部 | | 主に湖沼や河川下流域な ど、止水域や流れの緩やか な場所に生息。 | 特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けて利用されているが、許可を受けて利用されているものもある。一部の管理的り場や湖でスポーツフィッシングに利用されている、山中湖などでは漁業権が免許され、放流も行われている。この他、展示用の利用もある。 | 生息水域から逸出させないよう注意が必要。 | | 各県:青森、千 | Lever (1996), 川那部·水野·細谷(監修・編) (2001), 自然環境研究センター(編著) (2008)、瀬能·松沢(2008) |
| 京点重 | 対策外 | 来種 | | 1 | | | | | | 1 | | | | ī | | | | | · | | | | | 要注意、 | 自然環境研究センター |
| 26 分布拡加 まん延振 | | 重点対策 外来種 | | 旧事 | 要注意 夕 | タイリクバラタナゴ | Rhodeus ocellatus ocellatus | , | | | | - | - | | - | - | | 中国、朝鮮半島、台湾 | 北海道、本州、四国、九州 | 河川下流域、湖沼、水路 | 一般的な観賞魚として大量に流通して いる。また、釣魚でもある。 | 産卵母貝となるイシガイ科二枚貝の タナゴの繁殖期の移植を控える等配 慮が必要 | 息範囲では本種の侵入に特に留意が必要。 | W100:日本、 各県:青森、千 葉、滋賀、京都、 鳥取、愛媛、佐 賀、熊本 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001)、 Kawamura et al. (2001) |
| 27 分布拡: まん延! | 大期~ !! | 重点対策 外来種 | | 特定 | ミ外来 カ | カダヤシ | Gambusia affinis | | | | - | | | - | - | - | - | アメリカ南東部 | 福島以南の本州、四国、沖 縄、小笠原 | 主に水田地帯などの流れの 無い用水路に生息するが、 河川本流や湖沼にも生息。 | 観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が主に展示用として利用されている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | メダカの生息地に本種が侵入した場合、メダカが減少し、カダヤシに置き換わってしまうケースがある。卵胎生。 | 特定外来、 W100:日本· IUCN、 GISD、 各県:滋賀、京 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001)、 Francis eds. (2012) |
| そのfl | 也の総合 | 全対策外 第 | K種 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | · | · I | | | 自然環境研究センター |
| 28 定着初第定分布 | 初/院 | その他の 総合対策 外来種 | | 旧要 | 要注意 ス | オオタナゴ | Acheliognathus macropterus | | | | | - | - | - | - | - | | 中国、朝鮮半島、アムール川 | 霞ヶ浦、北浦。 利根川水系の 千葉、埼玉、栃 木(渡良瀬)に 分布拡大中。 | 湖、水路の沿岸から沖合まで | 観賞魚として比較的多(流通している。 また、釣魚でもある。 | 淡水真珠養殖用のヒレイケチョウガイ への卵、仔魚の混入の可能性があ る。産卵母貝となるイシガイ科二枚貝 のタナゴの繁殖期の移植を控える等 配慮が必要。 | 次 | 要注意、 各 県:滋賀 | 協議了(2008)、瀬能・松 沢(2008)、萩原 (2011)、 諸澤・藤岡 (2007)、侵入 生物DB, http://www.gef.or.jp/acti vity/ecosystem/tanago/ ootanago2007.pdf |
| 29 定着初 | 初/吃 | その他の 総合対策 外来種 | | | , | ハクレン | Hypophthalmichthys molitrix | | | - | - | | - | - | - | - | | 中国、アムール川 | 自然繁殖は利根川・江戸川水系淀川水系の み、北海道と沖縄を除く国内各地 | 河川下流域、湖沼、水路 | 観賞魚として少量が流通している。 釣魚 でもある。 | 本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は 厳に慎むべき。 | 繁殖は利根川等大規模河川に限られる。海外では、生物多様性に影響を及ぼした事例がある。 ブランクトン食のため、水域での生息密度が高まると、ブランクトンが激減し、食物連鎖を通じて大きな影響を与える。アメリカでは深刻化した事例がある。 | GISD、その 他 | 瀬能·松沢(2008), 川那 部·水野·細谷(監修·編) (2001), Francis eds (2013) |
| 20 定着初 定分布 | | その他の 総合対策 外来種 | | | Ξ | コクレン | Aristichthys nobilis | | | / . | . - | | - | - | - | - | | 中国、アムール川 | 自然繁殖は利根川・江戸川水系のみ、淀川 | 河川下流域、湖沼 | 観賞魚として少量が流通している。 釣魚 でもある。 | 本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は 厳に慎むべき。 | Hypophthalmichthys nobilisとしてGISD、繁殖は利根川等大規模河川に限られる。海外では、生物多様性に影響を及ぼした事例がある。ブランクトン食のため、水域での生息密度が高まると、ブランクトンが激減し、食物連鎖を通じて大きな影響を与える。アメリカでは深刻化した事例がある。 | GISD、 その 他 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001)、 Francis eds (2012) |
| 定着初 ³¹ 定分布 | 初/吃 | その他の総合対策外来種 | | 旧要 | 要注意と | ソウギョ | Ctenopharhyngodon idellus | | | <u></u> | - | | - | - | - | - | - | 中国、アムール川 | 東北から九州 (自然繁殖は利 根川・江戸川水 系のみ) | 河川下流域、湖沼 | 除草目的や釣魚として河川や湖沼、公園、などに放流されている。また、観賞魚としてアルビノ個体などが比較的普通に流通している。釣魚でもある。 | なる可能性もある。野外への放流は | Ctenopharhyngodon idellaとしてGISD、利根川・江戸川水系、霞ヶ浦・北浦に定着。繁殖は利根川等大規模河川に限られる | 要注意、 W100:日本、 GISD、 各県:滋賀、愛媛、熊本 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001) |
| 32 定着初期 定分布 | 40 / PIX | その他の 総合対策 外来種 | $\sqrt{}$ | 旧妻 | 要注意 フ | アオウオ | Mylopharyngodon piceus | , | | / - | . - | | - | - | - | - | | 中国、アムール川 | 自然繁殖は利 根川・江戸川水 系のみ、榛名 湖、岡山 | 河川下流域、湖沼 | 観賞魚としてご〈少量が流通している。 釣魚でもある。 | 本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は 厳に慎むべき。 | 本種の繁殖には利根川のような大河川が必要。海外ではスクミリンゴガイなどの外来種の貝類の除去に利用されている例もある。 知見の集積が必要 | 要注意 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能·松 沢(2008)、川那部·水野・ 細谷(監修・編) (2001) |
| 33 分布拡加 まん延期 | H I | その他の 総合対策 外来種 | | 旧要 | 要注意 カ | カラドジョウ | Paramisgurnus dabryanus | , | | | | - | - | - | - | - | | 中国、朝鮮半島 | 宮城、栃木、茨城、埼玉、静岡、長野、香川 | 水田や周辺の農業用水路に生息。 | 食用や観賞魚等の餌用として流通して いる。 | 在来のドジョウに酷似するため、気づかれずに放流されてしまう恐れがある。 | ドジョウとカラドジョウが混在する水域で、後者が優占する場所 も知られている。遺伝的摂乱が心配される。また、正常な繁殖 相手を巡る競争が生じており、その影響が懸念される。生態系 等への影響に関する知見の集積が必要。 | 要注意、 各 県∶愛知、愛媛 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001)、 清水・高木 (2010a, 2010b) |
| 34 定着初 | 初/院 | その他の 総合対策 外来種 | 1 | $\sqrt{}$ | = | コウライギギ | Pseudobagrus fulvidraco | | | $\sqrt{}$ | - | | - | - | | - | - | 東アジア(アムール川から韓国、中国南部) | 霞ヶ浦 | 原産地では湖沼や河川に 生息する。 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 生態系への影響や漁業被害に関する知見の集積が必要。 生態系に甚大な被害を及ぼすとして特定外来生物に指定され ているチャネルキャットフィッシュと食性等が似ているため、在 来生態系に被害を及ぼす可能性が高い、また、分布が拡大し た際に、在来のギギ科魚類との競合、交雑が起こることが懸念 され、今後の動向に注意する必要がある。 | その他 | 荒山ほか(2012) |

| No 定着段階 | カテゴリ | 物書の本「美 | 特 | 定外来 旧要注 意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可生物 | | 生態系被合文雑 | 害 | 平価項目 分布拡大 | 重要 | なる | 問題と 被害 経済 経業 | 鬼出·拢 | | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|---|---------------------|--------|-----------|-----------------|-------------------------|----------------------------------|------|-----------|-------------|---------|----|-----------|----|----|-----------------------|------|------------------|---|-------------------------------------|--|---|--|--|-----------------------------|--|
| 35 定着初期/限定分布 | その他の総合対策外来種 | | | 要注意; | カワマス | Salvelinus fontinalis | | | | - | 摂良 | - | - | - | <u>佐</u> 葉 | | | ナダ、アメリカ東部 | 北海道、栃木、長野 | 平地から高地の河川や湖沿 の冷水域に生息。 | 白(から人童に食鬼・放流かられてさて 別いる。複数の都道府県で漁業権魚種と して免許されている。また、管理釣り場 | り、定着はごく一部であるが、いった ん定着すると在来種との競合が生じ るため、これ以上の分布拡大をしな いよう注意が必要。 | 定着はご〈一部の地域に限られる。20年以上前から確認、北海 道や長野県では在来のイワナやアメマスとの雑種が確認され ており、雑種が優占するなどの影響が出ている、雑種は捻性を もつものの雑種崩壊により遺伝子攪乱の危険は少ないことが 報告されている。ただ、正常な繁殖の機会が失われ、存続しな い雑種個体群が生じることによる在来種への影響が懸念され 。 定着できる地域が北海道や寒冷地に限られるため、対策を優 先的に行う地域を選んで実施するのが効果的である。漁業権 が認められている地域もあるので、防除を行う際は確認する必 要がある。 | 要注意、 GISD、 各県:北 海道、滋賀 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 : 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001)、 侵入生物DB |
| 36 定着初期/限定分布 | その他の 総合対策 外来種 | | | , | ペヘレイ | Odontesthes bonariensis | , | | | - | | - | - | - | - | | | レゼンチン、ウル Pイ、ブラジル南部 | | 湖に生息。適水温は10- 28 だが、冬期に5 程度 になる場所でも生息できる。 | 管理釣り場などで放流されることがある。 養殖もされている。 丹沢湖で野生化しているものは地域の名物として食用に利用されている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | 生態系への影響や漁業被害に関する知見の集積が必要。 露水浦・北浦では沖合生態系の優占種となるほど増殖しており、生態系に影響を及ぼしていると言われている。ワカサギや シラウオ等への漁業被害も懸念される。 | その他 | 瀬能·松沢(2008)、川那部·水野·細谷(監修-編)(2001)、春日(2001)、侵入生物DB |
| 定着初期/限 定分布 | その他の 総合対策 外来種 | | ll: | 要注意: | カワスズメ | Oreochromis mossambicus | | | | - | | | - | - | - | | - ア: | ザンビークから南 7リカのアルゴア湾 かけてのアフリカ大 有東岸 | 北海道、鹿児島、南西諸島 | 河川下流域や湖沼などの流れの緩やかな場所に好んで 生息。 | | マルIII 1 . ヘルンナル サールナル・ナ | 世界の熱帯・亜熱帯の河川や湖沼では競争により在来種や淡水カモ類を駆逐した例があるほか、付着藻類、デトリタス底生動物などを食べて食物網の基盤を改変している。局所的に長期間にわたって定着。マウスブルーダー。最長寿命は11年、定着は、国内の亜熱帯地域のほかは、温泉地や温排水などのご〈一部に限られる。 | 要注意、 W100:IUCN、 GISD | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001)、 北海道ブルーリスト |
| 38 定着初期/限定分布 | その他の 総合対策 外来種 | | lB: | 要注意: | ナイルティラピア | Oreochromis niloticus | | | | - | | | - | - | - | | ر را | | 地や工場排水 で温暖な水域。 | 河川緩流域、湖沼、ダム 湖、河口域などに生息。 | 少数が養殖されている。 | 特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川 では野外への放流は厳に慎むべき。 | 世界の熱帯・亜熱帯域では競争により在来種を駆逐した例が あるほか、付着藻類、デトリタス底生動物などを食べて食物網 の基盤を改変している。マウスブルーダー。寿命は約7年、鹿 児島県「池田湖」、沖縄、小笠原等に移入。局所的に長期間に わたって定着。 | 要注意、 GISD、 各県:愛 知、熊本 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001) |
| 定着初期/限 定分布 | その他の 総合対策 外来種 | | | : | ジルティラピア | Tilapia zillii | | | | - | | | - | - | - | - | | | 滋賀、鹿児島、南西諸島 | 河川緩流域、湖沼などに生 息。多様な環境に生息し、 水温や塩分濃度に対してき わめて広い適正を示す。 | 過去に養殖されていたことがあるが、現 在の利用実態は不明。 | | 滋賀、鹿児島、南西諸島に移入。滋賀・鹿児島では工場の温排水や湧水のある場所など、温度の安定した場所のみ、局所的に長期間にわたって定着、沖縄県で本種が侵入している水域では、在来種が見られなくなっているところがある。卵や仔魚は親魚に保護される。 | GISD | 潛能·松沢(2008), 川那部·水野·細谷(監修·編) (2001), GISD data sheet |
| 小笠原·南西諸 島 | その他の 総合対策 外来種 | | | , | パ - ルダニオ | Danio albolineatus | 1 | | | - | - | - | - | - | - | | | ァンマー、タイ、ラオ マレー半島、スマ ; | 沖縄島北部 | 丘陵地の水のきれいな小川 や河川下流を好む。日本で はため池に生息。 | 観賞魚として一般に広〈普及している種 で、安価で大量に流通している。 | では野外への放流は厳に慎むべき。 | 沖縄でのみ定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが 確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。 | その他 | 瀬能·松沢(2008)、 Ishikawa and Tachihara (2013) |
| 小笠原·南西諸 島 | その他の 総合対策 外来種 | | | | ゼブラダニオ | Danio rerio | , | | | - | - | - | - | - | - | | - ネル | ッド、パキスタン、 パール、バングラ ィッシュ、ミャンマー | 沖縄島北部 | 丘陵地の緩流や淀み。日本 ではため池に生息。 | 観賞魚として一般に広〈普及している種 で、安価で大量に流通している。 | | 沖縄でのみ定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが 確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。 | その他 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能·松 沢(2008)、Ishikawa and Tachihara (2013) |
| 小笠原·南西諸 島 | その他の 総合対策 外来種 | | | | アカヒレ | Tanichthys albonubes | , | // | | - | - | - | , | , | 1 | | - 中I | 国広東省、ベトナ | 沖縄 | 清涼な河川緩流域の水草 のある場所に生息 | 観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に流通している。 | 温帯性であるため、特に、本州中部 以南では野外への放流は厳に慎む べき。 | 沖縄でのみ定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが 確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。 | その他 | 山崎·阿部 (2007)、吉郷· 岩崎(2004)、Ishikawa and Tachihara (2013) |
| 小笠原·南西諸 島 | その他の 総合対策 外来種 | | | ; | スノーブレコ | Pterygoplichthys anisitsi | , | И | \bigwedge | - | | - | - | - | | | ル | ラグアイ、ブラジ ・ウルグアイ、アル ンチン | 沖縄島? | 氾濫原や湖沼、河川緩流域 に生息。 | 観賞魚として大量に流通している。 | 特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川 では野外への放流は厳に慎むべき。 | 定着実態及び生態系への影響や農業被害に関する知見の集積が必要。 沖縄島でマダラロリカリアとされているものの中に本種が含まれている可能性が高い。 | GISD、 その 他 | FishBase, GISD data sheet |
| 44 小笠原·南西諸 島 | その他の 総合対策 外来種 | | lB: | 要注意: | マダラロリカリア | Pterygoplichthys disjunctivus | | | | - | | - | - | | - | | - र ा | デイラ川流域 | 沖縄島 | 原産国では氾濫原などに生息。日本では河川や湖沼、 生活排水で汚染された水域 にも生息。 | | 特に、南西諸島や温泉水の川では野 外への放流は厳に慎むべき。 | Pterygoplichthys disjunctivus としてGISD、沖縄でのみ30年以上前から確認、メキシコでは索餌行動による濁り等の水質の悪化や水底の植生の破壊とそれに伴う在来種の生息環境悪化と減少を引き起こしている。フィリピンでは刺し網などの漁具を壊すなどの漁業被害が知られている。 | 要注意、 GISD | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能·松 沢(2008)、GISD data sheet、USGS NAS |
| 45 小笠原·南西諸 島 | その他の 総合対策 外来種 | | | | アマゾンセイルフィンキャッ トフィッシュ | Pterygoplichthys pardalis | , | | | - | | - | - | - | | | - 7° | マゾン川中下流域 | 沖縄島? | 河川、湖、湿地 | セイルフィンブレコなどの名前で複数種 が流通している可能性があり、本種がこ れに含まれる可能性がある。 | 特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川 では野外への放流は厳に慎むべき。 | 海外では同属種が索餌行動による濁り等の水質の悪化や水 底の植生の破壊し、それに伴う在来種の生息環境悪化と減少 を引き起こしている。生態系等への影響に関する知見の集積 が必要。 沖縄島でマダラロリカリアとされているものの中に本種が含ま れている可能性が高い。 | GISD、 その 他 | FishBase, GISD data sheet |
| 46 小笠原·南西諸島 | その他の 総合対策 外来種 | | lB: | 要注意 | ウォーキングキャットフィッ シュ | Clarias batrachus | | | | - | | - | - | - | - | | - 東 | 南アジア、インド | 沖縄島 | 湖沼、水田、河川緩流域、 運河、湿地などに生息し、 汽水域にも侵入する。 | 観賞魚として安価に大量に流通している。 | なる危険がある。特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流 | 東南アジアやアメリカ南部では捕食や競争により魚類や甲殻 類、カエル類を駆逐しており、特に乾季で水域が狭まった際に 影響が大きくなるとされる。沖縄島に定着しているヒレナマズは 本種の可能性がある。 | 要注意、 W100:IUCN、 GISD | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008) |
| 小笠原·南西諸 島 | その他の 総合対策 外来種 | | | | とレナマズ | Clarias fuscus | , | // | | - | | - | - | - | - | | | 国、台湾、フィリピ ベトナム、ラオス | 沖縄島、石垣島 | 河川下流域や湖沼など流れ の緩やかな水域を好む。 | は観賞用として安価に大量に流通してい る。 | | 沖縄島、石垣島に移入、1960年代に石垣島へ輸入、沖縄島では1985年に南風原町で記録、生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 | その他 | 瀬能·松沢(2008), 川那部·水野·細谷(監修・編) (2001) |
| 小笠原·南西諸 島 | その他の 総合対策 外来種 | | | | ソ・ドテ・ル | Xiphophorus hellerii | , | \square | / | - | | | - | - | - | | - j、 | Fシコ、グアテマ ベリーズ、ホン 1ラス | 山梨、沖縄島、 久米島 | 比較的流れの速い河川から 水路や池などいろいろな場 所に生息している。 | ー般に広く知られた観賞魚の代表であり、大量に流通している。 | | 本州では温泉水に局所的に定着。沖縄では1960年代から定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。沖縄島では河川で増加し、在来魚種への影響が懸念されている。 | GISD、 その 他 | 嶋津(2013), Kotteat and Freyhof (2007), Miller (2005) |
| 49 出版 中央 出版 | その他の 総合対策 外来種 | | | 要注意, | グッピ - | Poecilia reticulata | | | | - | | | - | - | - | | - < | ネズエラ、ガイアナ | 北海道、福島、 長野、静岡、岡山、大分、南西 諸島、小笠原 | 止水を好むが、比較的流れ のある小規模河川に生息し ている事も多い、流れのあ る場所では水草のある場所 に生息している。 | 一般に広く知られた観賞魚の代表であり、大量に流通している。 | 特に、用四語馬や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。 | 温泉地や温排水に局所的に定着。北海道、福島(内郷温泉)、長野「戸倉、上山田、浅間温泉」、静岡(蓮台寺温泉)、岡山(奥津温泉)、大分(別府温泉)、鹿児島(指宿温泉)、沖縄の各道県、小笠原に移入、海外の熱帯・亜熱帯域では、希少種を含むコイ科、カダヤシ科、メダカ科などの小型魚類を駆逐している。卵胎生。定着は、国内の亜熱帯地域のほかは、温泉地や温排水などのご〈一部に限られる。 | GISD、 各県:熊 本 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 第(漢) (2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001)、 Francis eds. (2012) |
| 50 小笠原·南西諸島 | その他の 総合対策 外来種 | | | , | インディアングラスフィッシュ | Pseudambassis ranga | | | | - | | - | - | - | - | | - パ: ミャ | キスタン、インド、 ングラディシュ、 ・ンマー、タイ、マ ーシア | 沖縄島 | 河川の淡水域から汽水域にかけて生息し、特に流れの 緩やかな淀みを好む。 | ご〈一般的な観賞魚として、広〈普及して おり、価格も安価で大量に流通してい る。 | 特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川 では野外への放流は厳に慎むべき。 | 沖縄でのみ定着。動物食性が強く、生息水域が沖縄島内で拡 大傾向にある。生態系等への影響に関する知見の集積が必 要。 | その他 | 瀬能・松沢(2008) |

| | | | 対策優先度の | 特定从3 | 7 | | | | | | | 項目 | 144 | 1-99 <i>9</i> 7 y | -1 | | | | | | | | | |
|-----------------------|--------|------------------|-----------------|-------------------|----------------------|--------------------------------------|------|-----------|---|----------|----|------|------|-------------------------|----|-----------|--|--|--|---|---|---|---|---|
| No 定着段 | 段階 カ | テゴリ | 被害の深 実 刻度 実行 | 効性・ / 旧要注 可能 音 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能 生物 導 | - | 態系被害 | - | 拡大 | 重要した | に問題と る被害 経済 産業 | | ·拡散 付着 | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 51 島 | 料四酯 総計 | の他の 合対策 来種 | | | コンヴ'ィクトシクリッド | Cichlasoma nigrofasciatum | | | | - Is | 艮 | | | - | | - | グアテマラ、エルサル パドル、ホンジュラ ス、ニカラグア、コス タリカ、パナマ | 沖縄 | 主に流れのある河川の浅瀬 や小川に生息し、特に岩礁 の亀裂が多い場所や植物 の根などが多い場所を好 む。 | り量ではあるが観賞魚として流通している。 | 特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。 | 沖縄では本種の多く生息する水域もあり、競合や卵・仔魚の捕 食などによる在来種への影響が心配されている。生態系等へ の影響に関する知見の集積が必要、 繁殖力がかなり強く、生息水域も拡大傾向にある。 | その他 | 瀬能·松沢(2008), Page and Burr (1991), Allen et al. (2002) |
| 52 小笠原·ē 島 | 種 | の他の 合対策 | | | ブルーティラピア | Oreochromis aureus | | | | - | | | | | - | - | セネガルからサウジ アラビアにかけての アフリカ中部 | 沖縄島? | 河川、湖沼に生息、水温耐性が高く、10 以下から 40 まで生きられる。 | 観賞魚として一般的ではないと思われ る。 | 特に、南西諸島、温泉水の川では野 外への放流は厳に慎むべき。 | 間や生育環境の競合によって在来種の減少を引き起している とされ、アフリカや北米各地で侵入後に本種が優占種となった 例がある。マウスブルーダー、沖縄島には本種と思われる表現 形質を有する個体が確認されている。亜熱帯地域に生息する 種であり、定着は、国内の亜熱帯地域のほかは、温泉地や温 排水などのご〈一部に限られる。ただし、本種は低温耐性が高 いため、温帯の特に暖かい地域では注意を要する。 | GISD | Kotteat and Freyhof (2007), FishBase, GISD data sheet |
| 適切な管理 分布拡大 まん延期 | 期~ 産 | な産 業管理 来種 | | Λ | 産業管理外来種) | Oncorhynchus mykiss | | | | - | - | | | | | - | アメリカの太平洋岸、 カムチャッカ半島 | 北海道、東京 都、長野、和歌 山、中国地方 | 平地から高地の河川や湖沿 に生息、降海型もいる。冷 水性。 | 古くから大量に養殖・放流がされてきて いる水産上の重要魚種。多くの都道府 県で漁業権負種として免許されている。 また、管理釣り場での利用も多い。 | り、いったん定着すると在来種との競 | 的境別の可能性は肌に、たたし、止帯な繁殖が阻害される可能性はある。 | 要注意、 W100:日本· IUCN、 GISD、 各県:北海道、 青森、熊本 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 沢(2008)、川那部・水野・ 細谷(監修・編) (2001)、 侵入生物DB |
| 分布拡大 54 まん延期 | | 業管理 来種 | | 旧要注意 | え ブラウントラウト | Salmo trutta | | | | - | - | | | | | - | ヨーロッパからアラル 海までの西アジア | 北海道、秋田 県、栃木県、山 梨県、長野県、 神奈川県、富山 県など | の中低層に生息。降海型も | 古くから養殖・放流がされており、少なく とも3県で漁業権魚種として免許されて いる。この他、管理釣り場での利用が多 い。 | 北海道では広い範囲で定着しており、いったん定着すると在来種との競合が生じるため、これ以上の分布拡大をしないよう注意が必要。 北海道では内水面漁業調整規則により移植が禁止されている。 | 北海道では多くの河川で定着しているが、本州以南では放流なしては資源を維持できないと考えられている。在来のイワナとの交雑個体が確認されているが、遺伝的攪乱の危険性は低いことが報告されている。ただし、正常な繁殖相手を巡る競争が生じており、その影響が指摘される。北海道では他種を駆逐して優占種になっている水域もある。希少種であるニホンザリガニの捕食も確認されている。北海道では漁業調整規則で移植が禁止されており、北海道での分布拡大は私的放流によるものと考えられている。 | 要注意、 W100:日本· IUCN、 GISD、 各県:北海道、 滋賀 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能・松 水(2008)、川那部・水野・ 細谷監修・編) (2001)、 Francis eds (2012)、中田 ほか(2006)、侵入生物 DB、鷹見ほか(2002) |
| 定着初期 55 定分布 | | 業管理 来種 | | | レイクトラウト | Salvelinus namaycush | | | | - | - | | | | | - | カナダ、アメリカ北東部 | 中禅寺湖 | 水温20 以下の湖沼に多 い、マス類の中でももっとも 低温を好み、適水温は4- 10 。 | 栃木県中禅寺湖では、かつて放流され たレイクトラウトが定着し、また、現在も 発眼卵放流が行われ、遊漁の対象とし て利用されており、地域の名物となって いる | 特に北方や高地の湖沼において、分布が拡大しないよう注意が必要。 | アメリカの湖では捕食や競争により在来のサケ科魚類を駆逐する事例がある。栃木県中禅寺湖のみで定着。20年以上前から確認。20-25年の長寿命。 現在の侵入水域が中禅寺湖に限定されているが、大型の魚食魚であり、遊漁の対象として意図的放流された場合、在来生態系に悪影響を与える危険性がある。 | GISD、その 他 | 自然環境研究センター (編著) (2008)、瀬能·松 沢(2008)、川那部·水野· 細谷(監修・編) (2001)、 Ruzycki et al. (2003)、侵 入生物DB |
| 【国内由来 | その外羽 | ₹種、[| 国内に自 | 然分布域 | を持つ国外由来のタ | 卜来種 】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| No 定着段 | 段階 カ | = 7 11 | 被害の深 実 | 特定外系 | 联 主 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能 生物 導 | | 態系被害 対 損 | 分布 | 拡大質候 | 重要 人 | 体 経済産業 | 利用 | 付着混入 | 分布 | 問題となってい る地域 | 生息環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 総合的に対 | | | | 総合対策外 | 来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 国内由来来種 | 7 to | の他の合対策 | | | 琵琶湖・淀川以外の八ス | Opsarichthys uncirostris uncirostris | | | | | - | | | . - | - | | 琵琶湖淀川水系,福 井県三方湖 | | ダム湖など大きな遊水池、 湖沼、湖沼と結合した河川、 大型河川 | 琵琶湖では少量が漁獲されているが、 一般にはあまり出回らない。 | 野外に放流しないよう注意が必要。 | | 各県∶愛媛 | 井原ほか (2011)、川那 部ほか (編) (2002)、松 沢・瀬能 (2008)、日本魚 類学会自然保護委員会 編 (2013)、野内ほか (2008) |
| 2 国内由来来種 | | の他の 合対策 | | | 東北地方などのモツゴ | Pseudorasbora parva | 3 | | - | - | | | | | | - | 関東地方以西の本 州,四国,九州 | 北海道、東北地 方、関東地方、 長野県、沖縄県 | 湖、池沼、それに続(細流、 河川下流域、泥底の淀み | 観賞魚の餌用などとして比較的普通に 流通している。 | 野外に放流しないよう注意が必要。 | シナイモツゴ生息地に侵入後、シナイモツゴを駆逐して優占種 となっている。雑種は不稔であり、遺伝子攪乱はないものの、 繁殖に関する競合により正常な繁殖が阻害されることで影響を 及ぼしている。 | 各県∶北海道、 青森 | 川那部ほか (編) (2002) 、松沢・瀬能 (2008)、日 本魚類学会自然保護委 員会編 (2013)、西田 (2001) |
| 3 国内由来来種 | | の他の合対策 | // | | 九州北西部及び東海・北郎 地方以東のギギ | 陸 Tachysurus nudiceps | | - | | - | - | | | - | | | 州、四国、九州北東部 | 秋田県、新潟県、福井県、山梨県、愛知県、 岐阜県、三重県、熊本県 | 河川中流域や湖沼に生息 | 観賞用として少量が流通している。 | 野外に放流しないよう注意が必要。 | 侵入年代は不明。 絶滅危惧種で国の天然記念物である東海地方固有のネコギ ギの生息する河川で分布を広げ、また九州西部ではアリアケ ギバチ生息地への影響が懸念されている。 | その他 | 川那部ほか (編) (2002) 、松沢・瀬能 (2008)、 Mizoiri et al. (1997)、日 本魚類学会自然保護委 員会編 (2013)、徳原・原 (2002)、渡辺・森 (2012) |
| 4 国内由来来種 | | の他の 合対策 | | | 近畿地方以東のオヤニラ | ₹ Coreoperca kawamebari | | | - | - | - | | | | | - | 保津川・由良川以西 の本州、四国北東 部、九州北部。国外 では朝鮮半島南部。 | 東京都、神奈川 県、愛知県、滋 賀県 | 水の澄んだ河川の緩流部、 水路に生息。 | 観賞魚として稀に流通している。 | 野外に放流しないよう注意が必要。 | 侵入年代は不明。 滋賀県と愛知県では条例で放流を規制しており、岐阜県美濃 加茂市では自治体が研究者と協力して駆除を行っている。東 海地方や東京都の移入地は絶滅危惧種の生息地にもなって おり、影響が懸念されている。 減地方でも由良川水系、桂川水系以西には自然分布してい る。 | 各県:愛知、滋賀、愛媛、 その他 | 岐阜新聞(2013年11月24日付)、松沢・瀬能(2008) 、日本魚類学会自然保護委員会編(2013) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(昆虫類)>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入 2015.03.26 対策優先度の要件 評価項目 被害の深 実効性・ 刻度 実行可能 特に問題と 重要 なる被害 定着可能性 生態系被害 分布拡大 逸出·拡散 定着段階 カテゴリ 和名 学名 選定理由 原産地·分布 日本での分布 生息環境等 利用状況 利用上の留意事項 備考 抽出根拠 文献等 生物 導入 競合 交雑 捕食 繁殖 気候 地域 人体 経済 利用 付着 雇業 利用 混入 要注意 定着を予防する外来種(定着予防外来種) 侵入予防外来種 990年代後半から販売業者・愛好者により販 長入 予防 特定外 - 部の種の輸入について植物防疫法上の規制あ 自然環境研究センタ・ 未定着 ヒメテナガコガネ属 中国、西アジア原産。 特定外来 南米原産。オーストラ! 亜熱帯~暖温帯の草 特定外来 W 白然環境研究センター 侵入予防 特定外 未定着 ヒアリ(アカヒアリ) 地など比較的開けた 利用に関する情報は得られなかった。 GISD、(編著)(2008)、東ほか 中南米原産。ガラパコ 現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養 特定外 コカミアリ 特定外来、W 侵入予防 外来種 森林、痩地、農耕地 3 未定着 Vasmannia auronunctata 、ニューカレドニア等 は規制されているが、学術研究等の目的で逸出には十分な注意を払うべき。 境研究センター(編著) 100: IUCN, GISD の島嶼に侵入。 許可を受け飼養された実績がある。 南米等では養蜂に用いられる。日本では、家 畜伝染病予防法により輸入が規制されてい アフリカ東部 ~ 南部原 森林、農耕地、住宅地等 旧要注 アフリカミツバチとアフリカ 意 化ミツバチ アフリカ化ミツバチは、亜種アフリカミツバチとヨー ロッパ産亜種との交雑で生じたもの。 安易な導入を計画すべきではな 然環境研究センタ 未定着 要注意 Apis mellifera scutellata (編著)(2008) インド諸島等に侵入。 990年代後半から販売業者・愛好者により販 小笠原·南西 侵入予防諸島/未定着 外来種 特定外 インドネシア、フィリピン -部の種の輸入について植物防疫法上の規制あ 自然環境研究センタ・ クモテナガコガネ属 uchirus spp. 特定外来 その他の定着予防外来種 大量に輸入され、流通している。種によって は安価に入手可能で、幅広い層にペットとし て飼養されている。 遠出には十分な注意を払い、放逐 野外での外国産のオオケワガタ属と日本産の同属 を厳に慎むべき。 一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あ リュージの大力タ属と日本産の同属 ・大海道、青森、千 種とラタケワガタとの雑種個体の確認例があり、遺伝 援、鹿児島 -部の種の輸入について植物防疫法上の規制あ 自然環境研究センター 旧要注 森林に生息する種が 全動物地理区に約1200 未定着 定着予防 外国産クワガタムシ ucanidae Gen spp. (編著)(2008)、藤田 大量に輸入され、流通している。種によって は安価に入手可能で、幅広い層にベットとし て飼養されている。 - 部の種の輸入について植物防疫法上の規制あ)。アトラスオオカプト*Chalcosoma atlas* が最も安価 森林に生息する種が 多い。 全生物地理区に約1000 種が分布 各県:千葉、京 都、鹿児島、沖縄 定着予防 未定着 外国産カプトムシ 荒谷 (2003, 2005) ynastinae Gen. spp. ト来種 で大量に流通している。 -部の種の輸入について植物防疫法上の規制あ 990年代後半から販売業者・愛好者により販 自然環境研究センター (編著)(2008)、柄澤ほか(2012)、林(2013) | 1550年代後十万分級の条目 受対 目により版 売、飼養がなされている。現在は特定外来生 物に指定され輸入・飼養は規制されている が、飼養許可の実績がある。 小笠原・南西 諸島 / 未定着 その他の 定着予防 特定外 外国産テナガコガネ属 大木のある成熟した 森林 リ。 在来種のヤンバルテナガコガネ(国内希少野生動植 物種)と近縁の種では交雑による遺伝的撹乱が懸念 されている。 東南アジア原産。 特定外来 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 緊急対策外来種 東京、神奈川、静岡、 東京、神奈川、静岡、 愛知、岐阜、京都、大 阪、兵庫、岡山、広 日本では港湾や住宅 地等、人工的な環境 9 分布拡大期~ 緊急対策 まん延期 外来種 特定外 環境省(2013)、田付 アルゼンチンアリ 利用に関する情報は得られなかった。 inepithema humile 100:日本·IUCN (編)(2014) 島、山口、徳島 北米南部~中南米原 産。世界各地の熱帯に 侵入。 特定外来、 W 100:日本·IUCN、 GISD、 各県:沖縄 特定外 アカカミアリ 火山列島硫黄島、沖 縄本島 裸地、草地等開放的 自然環境研究センタ 中縄伊江島の個体群は絶滅した可能性が高い。 利用に関する情報は得られなかった。 alenopsis geminata (編著)(2008) emant et al. 特定外 定着初期/限 緊急対策 中国南部原産。韓 森林、農耕地、住宅 2012年に対馬で確認、島内各所で営巣が確認され ツマアカスズメバチ 利用に関する情報は得られなかった。 espa velutina (2011)、Choi et al. (2012)、境·高橋(2014 国、フランス、スペイン 外来種 ている。 重点対策外来種 中国、朝鮮半島、ロシア関東、静岡、岐阜、近南東部原産 日本生態学会 (編) (2002)、自然環境研究 センター(編著)(2008) 旧要注 かつて愛好家により飼養されていた実績があ 逸出には十分な注意を払い、放逐 ホソオチョウ(ホソオアゲハ) 河川敷、農耕地等 南東部原産。 まん延期 外来種 . 現在もその可能性がある. を厳に慎むべき. 岡. 大分 中国、朝鮮半島、ベトナ 内原産。 関東、伊豆大島。静 岡、山梨、長野でも記 録されている。 要注意、 各県: (編著) (2008)、柄澤他 (2012)、林(2013) 3 分布拡大期・ まん延期 重点対策 外来種 旧要注 アカボシゴマダラ大陸亜種 意 (名義タイプ亜種) かつて愛好家により飼養されていた実績があ 逸出には十分な注意を払い、放逐 関東地方を中心に分布拡大中。 を厳に慎むべき。 都市、里山等 ニューギニア原産と考えられている。オーストラリア、太平洋諸島等 N笠原固有種/ヤシを加害。 サトウキビにも被害を 小笠原·南西 重点対策 諸島 外来種 W100:日本、 カンショオサゾウムシ \笠原·大東諸島 森林、農耕地等 川用に関する情報は得られなかった。 苅部ほか(2008, 2009) 与える。 輸入について植物防疫法上の規制あり。 ∶沖縄 その他の総合対策外来種 輸入について植物防疫法上の規制あり 5 定着初期/限 総合対策 定分布 外来種 電人によりにはかり返んない。 在来種のオキナワシロテンハナムグリとの交雑によるF1と見られる個体が屋外で発見されており、生殖 提乱の影響が懸念される。また、別種リュウキュウオ オハナムグリとの交雑のおそれも指摘されている。 シロテンハナムグリ台湾亜 奋羊大島 沖縄島 旧要注 種(サカイシロテンハナムグ 台湾原産。サイパン、 アムに侵入。 自然環境研究センタ (編著)(2008) 利用に関する情報は得られなかった。 要注意 サクラ等への影響が懸念。 その他の 定着初期/限 定分布 中国、朝鮮半島、台 ウビアカツヤカミキリ(クロ 公園や市街地の街路 総合対策 外来種 輸入について植物防疫法上の規制あり。 知見の集積が必要。 romia bungii 寄玉. 愛知 利用に関する情報は得られなかった。 愛知県(2013) 2008年頃三重に定着、分布拡大が注目される。 逸出には十分な注意を払い、放逐 輸入について植物防疫法上の規制あり。 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集 フェモラータオオモモプトハ Sagra femorata その他の 南アジア~東南アジア ~中国南部。 植物防疫法違反で導入された個体が、イン ターネット等で流通、飼養されていた。 三重 秋田ほか(2011)

積が必要。

| | | 対 | 策優先度の | 要件 | | | | | | | | 部 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | |
|----------------|------------------|-----|-------------------------|------------------|-------------------|--------------------------|---------------------------------------|------|---------------|-----------|-----------|-------|-------------|------|----------|-------|----------|---------------------------------------|------------|------------|--|--|--|---|---|
| No 定着段 | 階 b カラ | ゴリぉ | 大書の深 実 刻度 実行 | 対性: 特 | F定外 ₹/旧 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能 | 能性 | 主態系被 | 害分 | 布拡大 | 重要! | 特に問題なる被害 | と 逸出 | 比拡散 | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| | | | 刻度 | ^{丁可能} 男 | 注意 | | | | 生物 | 尊入 競台 | 交雑 | 捕食 繋 | 殖気候 | 地域 | | | 付着 混入 | | | | | | | | |
| 18 小笠原·南 諸島 | 西 その 総合 外来 | 対策 | | IE 意 | 要注 | チャイロネッタイスズバチ | Delta pyriforme | | \mathcal{A} | <u> </u> | - | - | | | - - | - | | 東南アジア、南太平洋 諸島原産。 | 小笠原諸島 | 森林~住宅地 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 小笠原に侵入した個体群の亜種が特定されておらず、侵入元は不明。知見の集積が必要。 | 要注意 | 自然環境研究センター (編著)(2008) |
| 19 小笠原·南諸島 | 西 総合 外来 | 対策 | | E ê | 要注 | ナンヨウチビアシナガバチ | Ropalidia marginata | | И | <u> </u> | - | - | | | | | | 東南アジア、マリアナ諸 島原産。 | 火山列島硫黄島 | 森林~林縁等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 硫黄島では全域の優占種になっている。知見の集 積が必要。 | 要注意 | 自然環境研究センター (編著)(2008) |
| 適切な管理 | が必要 | な産業 | ž E E ș | な外を | 将種() | 産業管理外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 定着初期 定分布 | /限 産業 外来 | | | 特来 | 宇定外 t | セイヨウオオマルハナバチ | Bombus terrestris | | | | | - - | | | - - | | - | ヨーロッパ原産。 北米、 オーストラリア、イスラエ ルに侵入。 | 北海道 | 林緑、草地、農耕地等 | ハウス内の作物の受粉用の農業資材として、 特定外来生物の飼養等許可を受けた農家・ 事業者のみが利用している。 | 飼養等許可の内容を遵守し認可 の際の条件である、ハウスへの ネット展張など管理を厳格におこ なう。 | 北海道でのみ継続的な繁殖が確認されている。本 州以北でも野外で確認されるが定着は確認されてい ない。 | 特定外来、 W 100:日本·IUCN、 各県:北海道、青 森、千葉、滋賀、京 都、兵庫、熊本 | 自然環境研究センター (編著)(2008), Dohzono et al. (2008), Kanbe et al. (2008), Yokoyama & Inoue (2010) |
| <u>【国内由来</u> | の外来 | 種】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| No 定着段 | 階 カラ | ゴリ | 策優先度の 実 実 対度 実 | 特効性・非 | 持定外 兵/旧 便注意 | 和名 | 学名 | | 定着可能生物。 | | 主態系被 | 害分 | 布拡大 気候 | 重要地域 | 人体産 | 済業利用 | 付着混入 | 分布 | 問題となっている地域 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 総合的に対 | 対策が必 | 要なタ | 外来種(| 総合対 | 策種 |) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 国内由来 | の外 総合外来 | 対策 | $\sqrt{}$ | 1 | f | 尹豆諸島などのリュウキュ ウツヤハナムグリ | Protaetia pryeri | | | $\sqrt{}$ | - | - | | | | - | - | 南西諸島、九州南部 | 東京、伊豆諸島 | 森林 | | | 生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集 積が必要。 | その他 | 自然環境研究センター (編著)(2008) |
| 2 国内由来来種 | の外 総合外来 | 対策 | | | 1 2 | 北海道・沖縄のカプトムシ 本土亜種 | Trypoxylus dichotomus septentrionalis | | | | | | | - | | | | 本州、四国、九州、屋 久島他、朝鮮半島、中 国 | 北海道·沖縄島 | 森林 | ペットとして販売・飼育されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐 を厳に慎むべき。 | 飼育下では沖縄亜種との交雑が確認され、野外で の交雑による固有遺伝子への影響が懸念されてい る。北海道では知見の集積が必要。 | 各県:北海道、沖 縄 | 自然環境研究センター (編著)(2008)、北海道 ブルーリスト |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(陸生節足動物)>

【国外由来の外来種】

| 【国外由来 | の外え | | 優先度の要件は緊急対 | 策外来種・重点対策外来種のみ記入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2015.03.26 |
|------------------|---------------------------------|---------------|----------------------------|------------------|------------------------------|------|-----|------|-------|---------|----|-----|-----|---------|----------|------|-------------------------------|---|-------------------------|---|---------------------|---|-------------------------------|--|
| | | 対策優 | 先度の要件 | | | | | | | | 評価 | | | #±1-888 | 1 L I | | | | | | | | | |
| No 定着段階 | ま カラ | | 深 実効性・ 来 / 旧 深 実行可能 要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可 | - 1 | 生態系 | | 分布 | - 1 | 重要 | 特に問題なる被 | 害逸 | 出·拡散 | か注づり | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| | | 剡层 | 性 | | | | 生物 | 尊入 競 | 合 交额 | 推 摂食 | 繁殖 | 気候 | 地域, | 人体 経産 | 済 業 利 | 刊 混入 | | | | | | | | |
| | | | 曹予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防 | 5外来 | | 1 1 | 1 | ı | | | | | _ | | | | | | | | | | T | 1 | T | | T |
| 1 未定着 | 侵 <i>入</i> 外来 | 予防種 | 特定外来外来 | アトラクス属 | Atrax spp. | | | - | - - | - | - | - | - | | - - | - | オーストラリア 原産。 | - | 主に森林 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被 害がしばしば起きる。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 2 未定着 | 侵 <i>入</i> 外来 | | 特定外 来外来 | ハドロニュケ属 | Hadronyche spp. | | | - | - - | - | - | - | - | | - - | - | オーストラリア 原産。 | - | 主に森林 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被 害がしばしば起きる。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 3 未定着 | 侵 <i>入</i> 外来 | | 特定外来外来 | イトグモ属3種 | Lososceles spp. | | | - | - - | - | - | - | - | | - - | - | 北米~南米原 産。 | - | 住宅地等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | Loxosceles reclusa, L. laeta, L. gaucho の3種。 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被 害がしばしば起きる。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 4 未定着 | 侵 <i>入</i> 外来 | 予防種 | 特定外来外来 | ジュウサンボシゴケグモ | Latrodectus tredecimguttatus | | | - | - - | - | - | - | - | | - - | - | ヨーロッパ原 産。 | - | 住宅地等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| その他の | その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 未定着 | その 定着 外来 | 他の 予防 種 | 特定外来外来 | キョクトウサソリ科 | Buthidae Gen. spp. | | | | - - | - | - | - | - | | - | - | 世界の熱帯・亜 熱帯域に約950 種が分布。 | i - | | ベットとして飼養されていた。現在は特定外 : 来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。 | - | 本科に属するマダラサソリ <i>Isometrus maculatus</i> が先 島諸島に生息しているが、在来種もしくは古い時代の 外来種の両方の可能性があり詳細は不明。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| | 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分布拡大期 6 ~まん延期 | | | 特定外 来外来 | ハイイロゴケグモ | Latrodectus geometricus | | | / | - - | - | - | - | - | | - - | - | 原産地は不明。 熱帯 ~ 亜熱帯 に広く分布。 | 愛知、九州、沖 縄に定着。他に も確認記録多 い。 | 都市部、住宅地等 | 現在は特定外来外来生物に指定され輸入・ 飼養は規制されているが、学術研究の目的 で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払うべき。 | 強い神経毒を持つが人の死亡例は報告されていな (しし、セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いと言われてい る。 | 特定外 来、 各県: 兵庫·宮崎· 沖縄 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008)、ゴ ケグモ情報センター HP |
| 7 分布拡大期 ~ まん延期 | | | 特定外来外来 | セアカゴケグモ | Latrodectus hasseltii | | | | | | - | - | - | | - | - | 原産と考えられ | 中部地方以南 の主に太平洋 側の地域。関 東・東北の記録 が増加してい る。 | 都市部、住宅地等 | 現在は特定外来外来生物に指定され輸入・ 飼養は規制されているが、学術研究等の目 的で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払うべき。 | (強い神経毒を持ちオーストラリアで死亡例がある。国内では死亡例はない。 | 特定外 来、 各県: 京都、兵庫、 徳島 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008)、ゴ ケグモ情報センター HP |
| 定着初期 / 限定分布 | " 緊急 | | 特定外来外来 | クロゴケグモ | Latrodectus mactans | | И | 1 | | - | - | - | - | | - - | - | 北米原産。 | ЩП | 都市部、住宅地等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 米軍岩国基地とその周囲で発見される。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008), ゴ ケグモ情報センター HP |
| その他の | D総合 | 付策外来 | 種 | | | | | | • | | | | | • | 1 | | | | | _ | | | | |
| 9 分布拡大期 ~ まん延期 | 松公全 | 他の対策種 | | ヤンバルトサカヤスデ | Chamberlinius hualienensis | | | / | - - | - | - | - | - | - | | | 台湾原産。 | 神奈川、埼島、玉、高知、徳島、屋、屋、屋、屋、屋、屋、屋、角、大縄島、高、八大縄島、徳之島、徳之島、徳之島、徳之島、徳之島、徳之郎、徳宗本の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の | 住宅地、農地、 里地·里山的環 境 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 大量発生し不快害虫となる他、農業被害や毒を持つことの影響が大きい、知見の集積が必要。 | 各県:沖縄 | 藤山 (2009)、石田·藤 山 (2010) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(陸生節足動物)>

【国外由来の外来種】

| 【国外由来 | の外え | | 優先度の要件は緊急対 | 策外来種・重点対策外来種のみ記入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2015.03.26 |
|------------------|---------------------------------|---------------|----------------------------|------------------|------------------------------|------|-----|------|-------|---------|----|-----|-----|---------|----------|------|-------------------------------|---|-------------------------|---|---------------------|---|-------------------------------|--|
| | | 対策優 | 先度の要件 | | | | | | | | 評価 | | | #±1-888 | 1 L I | | | | | | | | | |
| No 定着段階 | ま カラ | | 深 実効性・ 来 / 旧 深 実行可能 要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可 | - 1 | 生態系 | | 分布 | - 1 | 重要 | 特に問題なる被 | 害逸 | 出·拡散 | か注づり | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| | | 剡层 | 性性 | | | | 生物 | 尊入 競 | 合 交额 | 推 摂食 | 繁殖 | 気候 | 地域, | 人体 経産 | 済 業 利 | 刊 混入 | | | | | | | | |
| | | | 曹予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防 | 5外来 | | 1 1 | 1 | ı | | | | | _ | | | | | | | | | | T | 1 | T | | T |
| 1 未定着 | 侵 <i>入</i> 外来 | 予防種 | 特定外来外来 | アトラクス属 | Atrax spp. | | | - | - - | - | - | - | - | | - - | - | オーストラリア 原産。 | - | 主に森林 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被 害がしばしば起きる。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 2 未定着 | 侵 <i>入</i> 外来 | | 特定外 来外来 | ハドロニュケ属 | Hadronyche spp. | | | - | - - | - | - | - | - | | - - | - | オーストラリア 原産。 | - | 主に森林 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被 害がしばしば起きる。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 3 未定着 | 侵 <i>入</i> 外来 | | 特定外来外来 | イトグモ属3種 | Lososceles spp. | | | - | - - | - | - | - | - | | - - | - | 北米~南米原 産。 | - | 住宅地等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | Loxosceles reclusa, L. laeta, L. gaucho の3種。 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被 害がしばしば起きる。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| 4 未定着 | 侵 <i>入</i> 外来 | 予防種 | 特定外来外来 | ジュウサンボシゴケグモ | Latrodectus tredecimguttatus | | | - | - - | - | - | - | - | | - - | - | ヨーロッパ原 産。 | - | 住宅地等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| その他の | その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 未定着 | その 定着 外来 | 他の 予防 種 | 特定外来外来 | キョクトウサソリ科 | Buthidae Gen. spp. | | | | - - | - | - | - | - | | - | - | 世界の熱帯・亜 熱帯域に約950 種が分布。 | i - | | ベットとして飼養されていた。現在は特定外 : 来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。 | - | 本科に属するマダラサソリ <i>Isometrus maculatus</i> が先 島諸島に生息しているが、在来種もしくは古い時代の 外来種の両方の可能性があり詳細は不明。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008) |
| | 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分布拡大期 6 ~まん延期 | | | 特定外 来外来 | ハイイロゴケグモ | Latrodectus geometricus | | | / | - - | - | - | - | - | | - - | - | 原産地は不明。 熱帯 ~ 亜熱帯 に広く分布。 | 愛知、九州、沖 縄に定着。他に も確認記録多 い。 | 都市部、住宅地等 | 現在は特定外来外来生物に指定され輸入・ 飼養は規制されているが、学術研究の目的 で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払うべき。 | 強い神経毒を持つが人の死亡例は報告されていな (しし、セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いと言われてい る。 | 特定外 来、 各県: 兵庫·宮崎· 沖縄 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008)、ゴ ケグモ情報センター HP |
| 7 分布拡大期 ~ まん延期 | | | 特定外来外来 | セアカゴケグモ | Latrodectus hasseltii | | | | | | - | - | - | | - | - | 原産と考えられ | 中部地方以南 の主に太平洋 側の地域。関 東・東北の記録 が増加してい る。 | 都市部、住宅地等 | 現在は特定外来外来生物に指定され輸入・ 飼養は規制されているが、学術研究等の目 的で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意 を払うべき。 | (強い神経毒を持ちオーストラリアで死亡例がある。国内では死亡例はない。 | 特定外 来、 各県: 京都、兵庫、 徳島 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008)、ゴ ケグモ情報センター HP |
| 定着初期 / 限定分布 | " 緊急 | | 特定外来外来 | クロゴケグモ | Latrodectus mactans | | И | 1 | | - | - | - | - | | - - | - | 北米原産。 | ЩП | 都市部、住宅地等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 米軍岩国基地とその周囲で発見される。 | 特定外来 | 自然環境研究セン ター(編著)(2008), ゴ ケグモ情報センター HP |
| その他の | D総合 | 付策外来 | 種 | | | | | | • | | | | | • | 1 | | | | | _ | | | | |
| 9 分布拡大期 ~ まん延期 | 松公全 | 他の対策種 | | ヤンバルトサカヤスデ | Chamberlinius hualienensis | | | / | - - | - | - | - | - | - | | | 台湾原産。 | 神奈川、埼島、玉、高知、徳島、屋、屋、屋、屋、屋、屋、屋、角、大縄島、高、八大縄島、徳之島、徳之島、徳之島、徳之島、徳之島、徳之郎、徳宗本の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の神奈の | 住宅地、農地、 里地·里山的環 境 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 大量発生し不快害虫となる他、農業被害や毒を持つことの影響が大きい、知見の集積が必要。 | 各県:沖縄 | 藤山 (2009)、石田·藤 山 (2010) |

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種· 围点対策外来種のみ記入

| | 対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入 対策優先度の要件 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2015.03.26 | | | | | | |
|-------------------------|---|-------------------|-----------------------|-------------------|--------------------------|--------------------------|------|-----------|-----------|------|-----|-----------|-------|--------|-----------------------|-----------|----------------|--|--|---------------------------|--|---------------------------------|---|---|--|
| | | | | | | | | | | | | 評価項 | 目 | | | | | | | | | | | | |
| No 定着段階 | カテゴリ | 被害の深刻 | 実効性・9 行可能性 | 特定外 来/旧 要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能 生物 導 | | 生態系被 | | 分布拡泛 繁殖 気 | 大重要地域 | 特になる人体 | 問題と 被害 経済 産業 | 逸出· 利用 | 拡散 付着 混入 | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 2着を予防す | る外来 | 重(定着 | 予防外 | 来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防约 | 小来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 未定着 | 侵入予防 外来種 | | | 旧要注意 | ムネミオブシス・レイディ | Mnemiopsis leidyi | | | - | - | | - | - | - | | - | - | 北米・南米の大西洋 沿岸原産。黒海、カ スピ海、地中海等に 侵入。 | - | 内湾から河口域に かけての海域 | こ 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 動物ブランクトンや小魚の捕食。 | 要注意、 GISD | lvanov et al. (2000)、自然環境 研究センター (編著) (2008)、 ISSG-GISD |
| 2 未定着 | 侵入予防 外来種 | | | 特定外来 | カワホトトギスガイ | Dreissena polymorpha | , | | | - | - | - | - | - | | - | ΙI | 黒海、カスピ海及び 周辺河川原産。ヨー ロッパ北米に侵入。 | - | 湖沼、河川 | ヨーロッパでは本種の 摂食活動を利用して貯 水池の水質浄化させる 試みがなされている。 | 導入は厳に慎むべき。 | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | 特定外来、 GISD | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 3 未定着 | 侵入予防 外来種 | | | 特定外来 | クワッガガイ | Dreissena bugensis | , | | | - | - | - | - | - | | - | | 黒海沿岸原産。カス ビ海、ヨーロッパ、北 米等に侵入。 | - | 淡水、汽水の岩、 人工構造物、泥中 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | 特定外来 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 4 未定着 | 侵入予防 外来種 | i / | | | ディケロガマルス・ヴィロー スス | Dikerogammarus vilosus | | | | - | | - | - | - | - | - | - | 東ヨーロッパ、黒海 ~ カスピ海地方原産。 西ヨーロッパに侵入。 | - | 湖沼、河川、汽水域 | 利用に関する情報は得 られなかった。 | - | 幅広い水域に侵入うし、他のヨコエビをはじめとする多種の水 生生物を捕食。栄養段階を大きく変貌させる。 | その他 | Dick & Platvoet (2000), Dick et al. (2002) , Noordhuis et al. (2009) |
| 5 未定着 | 侵入予防 外来種 | i / | | 旧要注意 | ヨーロッパミドリガニ | Carcinus maenus | | | | - | | - | - | - | | | | 3-ロッパ~アフリカ 北部の大西洋沿岸原 産。北米大西洋岸、 南アフリカ、オースト ラリアに侵入。 | i - | 内湾の岩礁、転 石、干潟、塩性湿 地 | 原産地では食用として 利用されている。 | 導入は厳に慎むべき。 | パラスト水への幼生の混入だけでなく、船舶のシーチェストに 混入していた事例も知られている。侵入地では、被食者であ る在来巻貝の殻を厚くするなどの表現型変異を短期間で引き 起こし、二枚貝群集の組成を大きく変化させたことなどが知ら れる。 | 要注意、W100:IUCN、 GISD | Cohen, A.N., Carlton, J.T., Fountain, M. C. (1995)、 Trussell, G.C. (2000)、 Grosholz, E.D. (2005)、自然環境研究センター(編著)(2008) |
| その他の気 | 2着予防 | <u>,</u> 方外来和 | <u> </u> | 1 | | 1 | | | | ' | | | | - | | | | | | | | | | | I |
| | その他の 定着予防 外来種 | _ | | 特定外来 | アスタクス属 | Astacus spp. | | | | - | | - | - | - | - | | - | 中央アジア〜ヨーロッ パ原産。 | - | 湖沼、河川等 | ペットとして飼養されて いた。現在は輸入・飼 養は規制されている。 | - | Astacus astacus, A. leptodactylus, A. pachypusの3種が含まれる。 | 特定外来 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 7 未定着 | その他の 定着予防 外来種 | | | | ミステリークレイフィッシュ | Procambarus fallax | | | - | - | | | - | - | - | | - | 北米南部。 | - | 河川等 | ペットとして飼養されて いる。流通量は多い。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 単為生殖をおこなう。ザリガニカビ病を媒介する可能性がある。 | その他 | IUCN-red list |
| 8 未定着 | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | ラスティークレイフィッシュ | Orconectes rusticus | | | | - | | - | - | - | | | - | 北米東部原産。北米 各地、カナダ、フラン スに侵入。 | - | 湖沼、河川等 | ペットとして飼養されて いた。現在は輸入・飼 養は規制されている。 | - | 様々な水生生物を補食し、摂食量が多い。 | 特定外来、 GISD | 自然環境研究センター(編著) (2008)、ISSG-GISD |
| 9 未定着 | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | ケラクス属 | Cherax spp. | | | - | | | - | - | - | - | | - | オーストラリア、 ニューギニア原産。 | - | 河川等 | ペットとして飼養されて いた。現在は輸入・飼養は規制されている。 | - | 本属は45種を含む。マロン C. tenuimanus、レッドクロウ C. quadricarinatus、ヤビー C. destructor 等が国内で流通していた。マロンは南アフリカに侵入。 | 特定外来 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 10 未定着 | その他の 定着予防 外来種 | | | 特定外来 | 外国産モクズガニ属 | Eriocheir spp. | | | | | - | - | - | - | | - | - | 中国等原産。ヨーロッパ諸国、北米等に侵入。 | - | 生体は河川、幼生 は海域で浮遊生 活。 | 「上海蟹」として食用にされるが、特定外来生物に指定されているた | 逸出には十分は注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | 侵入地では、造巣による土手の破壊や川底の浸食によって 生息場所の物理的構造を大きく変え、漁網内の漁獲物への 食害等の漁業被害を発生させていることが知られる。 | 特定外来、 W100:IUCN、 GISD | Dittel, A.I., Epifanio, C.E. (2009)、小林哲 (2012) |
| ᄊᄉᄊᄓᆇᅉ | 소소.>> ਰਜ | des del salazione | | A A COST AND | 女(香) | | | | | | | | | | | | | | | | 3 , | | | | |
| 総合的に対策 | | な外米 | | 刈束外 | 米種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策タ 分布拡大期 ~まん延期 | | ī | | 特定外来 | カワヒバリガイ属 | Limnoperna spp. | , | | | - | - | - | - | - | | - | | 東アジア ~ 東南アジ アに分布。 | 利根川水系、大 塩湖(群馬県), 天竜川、宇連 川・矢作川(愛 知県), 琵琶湖 淀川水系 | 淡水域の岩の裏、 水路等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | 特定外来、 W100:日本、GISD、 各県:北海道 千葉、滋賀、京都、兵庫 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 12 定着初期 / 限定分布 | 緊急対策 外来種 | | | 特定外来 | ウチダザリガニ(タンカイザ リガニを含む) | Pacifastacus leniusculus | | | <u> </u> | - | | - | - | - | - | | - | 北米原産。ヨーロッパ に侵入。 | , 北海道、福島、 千葉、長野、滋 賀 | 湖沼、河川等 | 特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けて利用されているものもある。阿寒湖と場路湖では漁業権が場路され食用に漁獲されている。 | 逸出には十分は注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | サリカニカヒ病を媒介する可能性かある。 | 特定外来、 W100:日本、GISD、 各県:北海道、青森、京都 | |
| 分布拡大期 ~ まん延期 | 緊急対策 外来種 | ī | | 旧要注意 | アメリカザリガニ | Procambarus clarkii | | | / - | - | | | - | - | - | | | 米国南部原産。メキシコ、ドミニカ、ヨーロッパ等に侵入。 | 全国各地 | 湿地、水田とその周辺等 | ペットとして多数飼育されている。かつては食用ウシガエルの餌として輸入された。 | 逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。 | | 要注意、W100:日本、GISD、各県:北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳島、鹿児島、沖縄 | |
| | 外术性 | ī | | 特定外来 | ニューギニアヤリガタリクウ ズムシ | Platydemus manokwari | , | | <u></u> | - | | - | | - | - | - | ΙI | ニューギニア原産。 オーストラリア、 太平 洋島嶼、モルジブ等 に侵入。 | 琉球列島、小笠原父島 | 森林、草原 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 小笠原父島の固有陸貝類に壊滅的な捕食の影響を与えている。 広東住血線虫の中間待機宿主となる。 | 特定外来、 各県:沖縄 | 自然環境研究センター(編著) (2008), Sugiura et al. (2006), Iwai et al. (2010) |
| 重点対策 | 卜来種 | | _ | 4 | T | | | | | | , , | , | | | | | | | | | | ı | T | T | T |
| 15 分布拡大期 ~まん延期 | 重点対策 外来種 | Ī | | 旧要注意 | スクミリンゴガイ | Pomacea canaliculata | | | | - | - | - | - | - | | - | | 南米原産。中国、韓国、東南アジア、ハワイ等に侵入。 | 関東以南 | 水田、水路等 | かつては食用とされていたこともあるが、現在は利用についての情報は得られなかった。 | - | | 要注意、W100:日本·IUCN、GISD、各県北海道、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳島、熊本、鹿児島 | |
| 分布拡大期~まん延期 | | ī | | 1 | ラプラタリンゴガイ | Pomacea insularum | | | $\sqrt{}$ | - | - | - | - | - | | - | - | 南米原産。 | 静岡、広島、八重山諸島 | 水田、水路等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 輸入について植物防疫法上の規制あり。 広東住血線虫の中間宿主となる。 | GISD | Matsukura et al. (2008) |
| | | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | / | 1 | | | | | | | | 東アフリカ原産。マダ ガスカル、モーリシャ | 小笠原諸島、沖 | 畑地に隣接した草 | 食用とするが、国内で | | 輸入について植物防疫法上の規制あり。 国内移動について植物防疫法上の規制あり。 | | |
| 17 定着初期 / 限定分布 | 重点対策 外来種 | Ī | | 旧要注意 | アフリカマイマイ | Achatina fulica | , , | | - | - | | | | - | | - | | ス、コモロ、インド、東南アジア、中国南部、 台湾、ハワイ、パヌアッ等に侵入。 北大西洋ヨーロッパ 沿岸、ノルウェー~地中海 | 題品、电关明 島、宮古島、八 重山諸島 | | | - | 広東住血線虫の中間宿主となる広東住血線虫の中間宿主となる。 なる。 小笠原で国内希少野生動植物種であるタイヨウフウトウカズ うを食害する。 | 要注意、W100:日本·IUCN、GISD、各県:鹿児島、沖縄 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |

| | T | | 対策億先度の要件 | *** | Web TR 4 | 定着可 | 影性 生 | 態系被害 | 評価 | | 特に | 問題と | ж н. | 坊勘 | returne | | // ch. 2017 000 | SIE-LAND | | All de | 11/1/17/16 | | | |
|--------------------|-------------------|----------|--------------|------------------|--------------|----------------------------|------|---------------------------|-------|-------|----------|-----|------------------------|----|---------|-----|---|--|---|---|---|---|--|---|
| No 定着段階 | カテ- | 被害の度 | 深刻 実効 行可 | 性·実 能性 要注意 | 机名 | 字名 | 選定理由 | | 算入 競合 | | | | 護要 <u>な</u> 域 人体 | | | | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 19 小笠原·南 諸島 | 外来和 | Ē | | 特定外来 | ヤマヒタチオビ | Euglandina rosea | , | | - | - | - | | - | - | - | 1 | 北米フロリダ、中南米 原産。熱帯・亜熱帯 の世界各地に侵入。 | 小笠原父島 | 温暖な地域の森林 ~草原 | 材用に関する情報は得られなかった。 | - | 現在、小笠原ではニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入 により激減し、ほとんど見られないが注意が必要。 広東住血吸虫の中間宿主となる可能性。 | 特定外来、 W100:日本・ IUCN、 GISD | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| その他の | | | 種 | 1 | | | 1 | <u> </u> | 1 | | 1 1 | | | 1 | | | | 1 | 1 | | I | マツノマダラカミキリに運ばれて、マツ類の樹体内に侵入する | | |
| 20 分布拡大期 ~まん延期 | | #第一/ | | | マツノザイセンチュウ | Bursaphelenchus xylophilus | , | | / - | - | | | - | | - | | 北米原産。東アジア、 ポルトガルに拡がっ ている。 | 北海道を除〈全 都府県 | アカマツ、クロマ ツ、リュウキュウマ ツなどのマツ林 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | ことによりマツ類を枯死させる(松枯れ、松(い虫被害)。 輸入について植物防疫法上の規制あり。また、森林病害虫等 防除法に基づき防除を実施。 | GISD、 その他 | 日本生態学会(編)(2002)、環境庁(1977) |
| 21 分布拡大其 ~まん延期 | | | 1 | | シマメノウフネガイ | Crepidula onyx | | // | | | - | | - - | 0 | | ; | 太平洋東岸原産。 | 北海道,仙台 湾,福島,関東 -東海-紀伊半 島,瀬戸内海, 大分,九州北部,有明海沿岸 | の海域。大型貝類 (サザエ・アワビな ど)の貝殻や岩に | | - | 水産利用種のサザエやアワビに付着し、商品価値の低下等を引き起こし、取り除きのためのコスト増大でも問題視されている。生態系等への影響については知見の集積が必要。 | 各県:北海道、千葉、京都、 兵庫、愛媛、 その他 | 日本生態学会 (編) (2002), 山 崎他(2009) |
| 22 分布拡大期 ~ まん延期 | | の対策 | | | コモチカワツボ | Potamopyrgus antipodarum | | | | | | 0 | - - | - | 0 | 0 | ニュージーランド原 産。 | 北海道、本州、四国、九州 | | ホタルのエサとして拡 散されている事例があ | | 無性生殖で増殖し、繁殖力が極めて強く、非常に高密度で生 息している地域が報告されている。知見の集積が必要。 | 各県:北海道、青森、滋賀、 京都、兵庫、 その他 | 浦部(2007), 増田他(2010) |
| 23 定着初期 / 限定分布 | その他総合文外来和 | 策 / | 1 | 旧要注意 | カラムシロ | Nassarius sinarus | 3 | | | | - | | - - | | - | , | 中国沿岸原産。 | 瀬戸内海、有明海 | | 中国では食用にされるが、精神障害、呼吸麻痺による死亡例もある。 国内では利用に関する情報は得られなかった。 | - | 輸入漁業資源に混入して侵入したと考えられている。 | 要注意 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 24 分布拡大期~まん延期 | | iの i策 | | | ハブタエモノアラガイ | Lymnaea columella | | Λ | | | | | | - | - | : | 北米原産。ヨーロッ パ、アジア、オースト ラリア等に侵入。 | 本州、四国 | 池沼、水路等の止 水か半止水的な環 境の淡水。 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 在来のモノアラガイとの置き換わりの事例が確認されている。 肝蛭等の吸虫類の中間宿主になりうる。 知見の集積が必要。 | 各県:北海道、千葉、滋賀、 京都、鳥取、 その他 | 高倉(2008) |
| 25 分布拡大~ まん延期 | その他 総合文 外来和 | 策 / | 1/ | | オオクビキレガイ | Rumina decollata | | \mathbb{N} | 1 - | - | | | - - | 0 | - | j | 地中海沿岸地域原 産。北米、南米、東ア ジアに侵入。 | 本州(関東以 西)、九州 | 市街地、農耕地の 乾燥した環境でも 生息可能。 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 農作物、園芸植物への影響が懸念されている。また、海外では他の陸産貝類を捕食することが知られている。自家受精で繁殖可能、知見の集積が必要。 輸入について植物防疫法上の規制あり。 | 各県:京都、兵庫、熊本、 その他 | 松隈·武田(2009), 梅谷(編) (2012), Fisher et al.(1980) |
| 26 定着初期 / 限定分布 | その他 総合文 外来和 | 策 / | | | マダラコウラナメクジ | Limax maximus | | | | - | - | | | | - | | ヨーロッパ原産。南北 アメリカ、ニュージー ランド、オーストラリア 等に侵入。 | 一部に侵入、定 | 都市部、住宅地、 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 海外では他種のナメクジに対して高い攻撃性を持つことや、 園芸植物や農作物への被害の報告がある。知見の集積が必 要。 輸入について植物防疫法上の規制あり。 | その他 | Rollo (1983), Baker & McGhie (1984) |
| 27 分布拡大期~まん延期 | | 策 / | 1 | 旧要注意 | ムラサキイガイ | Mytilus galloprovincialis | , | | | - | - | | | | | - 1 | 地中海沿岸原産。韓国、オーストラリア、 北米、アフリカ等に侵入。 | ほぼ全国の沿 | 潮間帯域の岩・人 工構造物に付着 | 通がある。岩手県にお | | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。大発生 年にはカキ養殖に甚大な被害を与える、北海道では在来種 キタノムラサキイガイとの交雑個体がほぼ全域で確認されて いる。 | IUCN、 各県:北海道、千 | Brannock, P.M., Wethey, D.S. & Hilbish, T.J. (2009) |
| 28 分布拡大期~まん延期 | | 策 / | | 旧要注意 | ミドリイガイ | Perna viridis | 3 | | | - | - | | | | | 2 | インド洋 ~ 西太平洋 の熱帯域。カリブ海、 メキシコ湾、オースト ラリア沿岸に侵入。 | 山形、関東以南 | 潮間帯の岩、人工構造物 | 食用とするが、国内で の生産はないと思われ る。 | - | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | 要注意、GISD、各県: 千葉、京都、兵庫、徳島 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 29 分布拡大期~まん延期 | | iの i策 | 1 | 旧要注意 | コウロエンカワヒパリガイ | Xenostrobus securis | , | | | - | - | | | | - | : | オーストラリア、 | 関東、中部以西 の沿岸。 | i 内湾、河口等の潮 間帯 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | 要注意、W100:日本、GISD、各県:北海道、千葉、京都、兵庫、鳥取、徳島 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 30 分布拡大期~まん延期 | | が策 | 1 | 旧要注意 | タイワンシジミ | Corbicula fluminea | | | | - | - | | - - | | | 1 | 中国、朝鮮半島、ロ シア原産。北米、南 米、ヨーロッパ、オー ストラリアに侵入。 | 本州 ~ 九州 | 湖沼、水路等の淡 水域 | 食用として流通している。 | 遺棄、放逐を厳に慎む べき。 | カネッケシジミf. insularisとされるものを含む。在来のマシジミと交雑し、外見上区別ができない状態になっている。食味は在来のヤマトシジミに比べて劣るとされる。 | 要注意、 GISD、 各県: 千葉、京都、兵庫、徳島、愛 媛 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 31 分布拡大期~まん延期 | その他総合対外来和 | 策 / | | 旧要注意 | イガイダマシ | Mytilopsis sallei | , | | | - | - | | - - | | - |] | メキシコ湾、カリブ海 原産。インド、ベトナ ム、台湾、香港、アフ リカ等に侵入。 | 千葉、東京、静岡、愛知、富山、大阪、和歌山、福岡 | 河川の下流部等 の汽水域 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | 要注意、 各県:北海道、 千葉、京都 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 32 定着初期 / 限定分布 | その他総合対外来和 | 策 / | | | ホンビノスガイ | Mercenaria mercenaria | | | 0 | | - | | | - | | - | 北米東海岸原産。北 米西岸、イギリス、フ ランス、オランダ、日 本に侵入。 | | 内湾の砂泥底 | 食用として流通している。千葉県市川市塩浜 地先と船橋市地先では 漁業権が設定され食用 に漁獲されている。 | 遺棄、放逐を厳に慎む べき。近年食用の利用も 増加しているが、導入は 慎むべき。 | 生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 | 各県:北海道、千葉、愛知、 京都、 その他 | 樋渡·木幡 (2005) |
| 33 定着初期 / 限定分布 | その低総合対外来利 | 策 / | | 旧要注意 | シナハマグリ | Meretrix petechialis | , | | | - | - | | | | | | 朝鮮半島、中国、ベト ナム原産。 | 詳細不明 | 内湾干潟の砂泥 底 | 食用として流通している。 | 十分な注意を払い、遺 | 環境省レッドリストで絶滅危惧!類とされた、在来種かつ食用 二枚貝であるハマグリとの交雑個体が瀬戸内海で確認され ており、ハマグリ個体群へのさらなる遺伝子浸透と希少個体 群の衰退が懸念される。 | 要注意、 W100:日本、 各県:千葉、京都、愛媛 | Yamakawa, A.Y. & Imai, H. (2012)、日本生態学会 (編) (2002)、自然環境研究セン ター (編著) (2008) |
| 34 分布拡大期~まん延期 | | 策 / | | 旧要注意 | カニヤドリカンザシ | Ficopomatus enigmaticus | , | И | | | - | | - - | | - | | インド洋 ~ オセアニア 原産とされる。 北米、 ヨーロッパ等に侵入。 | 本州各地、九州、石垣島 | 河口、港湾等 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。浜名湖で大発生してカキ養殖に被害を与えた。 | 要注意 | 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 35 分布拡大期 ~まん延期 | | t策 / | 1 | 旧要注意 | カサネカンザシ | Hydroides elegans | | // | | | - | | | | 1 | 1 | オーストラリア原産と いう説があるが詳細 不明。 北米、アゾレス 諸島、 ギリシャ沿岸、 ペルシャ湾岸、 西太 平洋に侵入。 | 本州、四国、九 州、隠岐、奄美 | 内湾 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。瀬戸内 海のカキ養殖に大きな被害を与えた。 | 要注意、 W100:日本 | 日本生態学会 (編) (2002),自 然環境研究センター (編著) (2008) |
| 36 分布拡大期~まん延期 | | | | 旧要注意 | タテジマフジツボ | Amphibalanus amphitrite | | | | | <u> </u> | | | | - | | 汎世界的に分布し、 ハワイ原産とする説 があるが不明。 | 全国の各地の 沿岸域 | 内湾の岩礁、港湾 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 在来フジッポを被覆して内湾の潮間帯の帯状分布を大きく改変する。 船舶、発電所、工場等の取水施設や養殖カキに付着 し汚損被害を引き起こす。 | 要注意、 各県:千葉、愛知、京都、愛媛 | Mori, K & Tanaka, M. (1989), 森敬介(2006)、自然環境研 究センター(編著)(2008)、山口 (2009) |
| 37 分布拡大期~まん延期 | | 策 / | | | アメリカフジツボ | Amphibalanus eburneus | | $\sqrt{}$ | | - - | <u> </u> | | - - | | - | j | 北~中米の大西洋沿岸原産。世界中の温 暖な沿岸域に侵入。 | F | 内湾の潮間帯、浅海の貝類に付着 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 船舶や養殖カキに付着し汚損被害を引き起こす。知見の集積 が必要。 | 各県:千葉、愛知、京都、兵庫 | 山口寿之(1989) |
| 38 分布拡大期~まん延期 | その他 総合文 外来和 | 策 / | | | ヨーロッパフジツボ | Amphibalanus improvisus | | $\mathbb{Z}^{\mathbb{Z}}$ | | | | | - - | _ | - | j. | 北〜南米の大西洋沿岸原産。東アジア、 ヨーロッパ、北米西部 沿岸に侵入。 | 本州以南の沿 | 内湾の潮間帯、浅海の貝類に付着 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 船舶や養殖カキに付着し汚損被害を引き起こす。知見の集積 が必要。 | 各県:千葉、愛知、京都、兵庫 | · 山口寿之(1989) |
| 39 分布拡大期~まん延期 | | 策 / | | | キタアメリカフジツボ | Balanus glandula | | | | | - | | | - | - | | 北米の太平洋沿岸原 産。南米に侵入。 | 北海道、東北沿岸 | 州間帯の上部~ 下部 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 潮間帯の中部で濃密に生息することから、そこに付着する在 来の固着生物を駆逐するおそれがある。 知見の集積が必 要。 | 各県:北海道 | 加戸 (2006) |
| 分布拡大期 ~まん延期 | | 策 / | | | フロリダマミズヨコエビ | Cragonyx floridanus | | | | | - | 0 | - - | - | , | : | 北米原産。 | 北海道、本州、四国、九州 | 小河川から大河川 の中流下流域から 止水まで幅広い止 水環境に生息。 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 侵入後20年程度で日本各地に分布を拡大した、ベットショップ で販売されているホテイアオイから検出されている。本種の侵 入地で他種のヨコエピが見られなくなる地域が報告されてい る、知見の集積が必要。 | 各県:千葉、滋賀、京都 | 金田他(2007), 倉西他(2009), 東城(2009) |

| | | | | 度の要件 | | | | | | | 評価項目 | | | | | | | | | | | | |
|----|-----------------|---------------------|--------|---------------|-------------------|-------------|--------------------|------|-------------|---------------|--------------|----|----------------------|---------------------|------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------|----------|---|--|-------------------------------------|
| No | 定着段階 | カテゴリ | 被害の深刻度 | 実効性·実 行可能性 | 特定外 来/旧 要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能性 生物 導入 | 生態系被害 競合 交雑 捕 | 分布拡大 食 繁殖 気候 | 主女 | 特に問題 なる被認 人体 産 | 』と 選出 済 利用 | · 拡散 付着 混入 | 原産地·分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 41 | 分布拡大期 ~ まん延期 | その他の 総合対策 外来種 | | | 旧要注意 | チチュウカイミドリガニ | Carcinus aestuarii | | | | - | - | - | | | 地中海、カナリア諸 島原産。南アフリカに 侵入。 | 東京湾、大阪 湾、伊勢湾、浜 名湖、洞海湾 | 河口~内湾の岩礁、潟、塩性湿地。繁殖期は沖合いへ移動。 | 利用に関する情報は得られなかった。 | - | 形態形質から国内定着個体群に同属種のヨーロッパミドリガ ニ C. maenus との雑種の存在する可能性も指摘されている。 知見の集積が必要。 | 要注意、 W100:日本、 各県:千葉、愛知、京都、兵 庫、徳島 | 自然環境研究センター(編著) (2008)、土井他 (2009) |

【国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

| # | 合的尼対货 重点対策 | | な外来種 | [(総合対策 | (外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---------------------------------|-------------|-------|--------|------------------|------------------|------|--------------|---|---------------|---------------------|----|-------|------|----------|------|----------------|--------------|-------------------|----------|--|--------|------------------------|
| N | 0 定着段階 | カテゴリ | 被害の深刻 | 特定 | /旧 和名 | 学名 | 選定理由 | 定着可能 生物 導力 | | 態系被害 交雑 捕! | 評価 分布 食 繁殖 | 拡大 | 重要 人体 | 経済産業 | 利用 付着 混入 | · 分布 | 問題となっている地域 | 生息環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
| 1 | 国内に自然 分布域を持 つ国外由来 の外来種 | 重点対策 外来種 | | | 自然分布域外のサキグロタマツメタ | Euspira fortunei | , | \mathbb{N} | - | - | | | | | - | | 東北~九州の 太平洋岸 | 干潟や泥底の浅 海 | 利用に関する情報は得られなかった。 | | 外国産アサリの種苗放流に伴い、各地に侵入したと考えられ、侵入地の二枚貝に甚大な影響を与えている。 | 各県:鹿児島 | 大越健嗣·大越和加(編) (2011) |